

金沢工業大学 御中

平成27年度 授業調査 報告書

---

2016.9.20

有限会社 アイ・ポイント

## INDEX

<1>本調査の全体像	2
<2>基本的な分析	7
<3>学年別の分析	16
<4>学部・学科別の分析	23
<5>科目区分別の分析	34
<6>同一学生群の分析	41
<7>授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析	47
<8>全体のまとめ	51

## <1>本調査の全体像

## 1) 調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は金沢工業大学(以下、KIT)の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、KIT全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 平成17年度に質問項目を変更しており、今回が11年目となるため、11年間の時系列比較を行って学生の実態がどのように変わっているかを確かめている。また、今年度の後期から選択肢の一部を変更している。

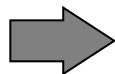
## 2) 調査の概略

今回の調査の概略は下記の通り。

項目	内容					
有効回答数	1年次生	30,652件				
	2年次生	31,705件				
	3年次生	28,347件				
	4年次生	1,599件				
	合計有効回答数	92,303件				
年別回答数推移	<b>年度</b>	<b>春学期(夏期特別含む)</b>	<b>秋学期</b>	<b>冬学期</b>	<b>全回答数</b>	<b>調査票</b>
	平成15年度	30,514	28,157	25,464	84,135	旧調査票 (比較不可)
	平成16年度	31,463	31,855	29,601	92,919	
	平成17年度	36,766	33,361	30,653	100,780	新調査票
	平成18年度	36,518	33,803	31,734	102,055	
	平成19年度	35,723	33,919	32,275	101,917	
	平成20年度	37,693	34,103	32,698	104,494	
		<b>年度</b>	<b>前期</b>	<b>後期</b>	<b>全回答数</b>	<b>調査票</b>
		平成21年度	42,446	43,962	86,408	新調査票
		平成22年度	48,541	48,175	96,716	
		平成23年度	53,166	49,870	103,036	
		平成24年度	47,317	46,666	93,983	
		平成25年度	47,317	45,003	92,320	
		平成26年度	45,014	50,767	95,781	
	<b>平成27年度</b>	<b>48,882</b>	<b>43,421</b>	<b>92,303</b>		
対象科目	529科目					
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施期間: 各学期の各授業科目の最終日に実施した。</li> <li>・ 実施方法: 記名式。科目担当教員が授業アンケートを配付、受講学生が回収し大学に提出した。</li> <li>・ 回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。</li> </ul>					
調査主体	学校法人 金沢工業大学					
集計	有限会社 アイ・ポイント					

## 3) 以前との設問の比較

	旧アンケート内容(平成15～16年度)
A	この科目は興味を持って受講することができましたか。
B	1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか。
C	授業が分からない時、オフィスアワー(OH)は有効でしたか。
D	授業の分からない点はオフィスアワー(OH)を利用する以外に、どのような行動を取りましたか。
E	学習支援計画書の記載内容は理解できましたか。
F	教科書・指導書の内容は理解できましたか。
G	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。
H	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。
I	自己点検授業はあなたの学習に効果的でしたか。
J	授業の理解を深めるために、最も多く利用した場所はどこですか。
K	あなたはこの科目に満足していますか。



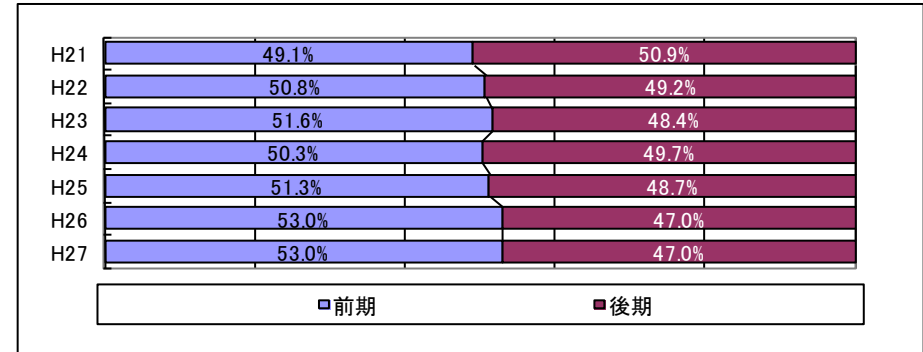
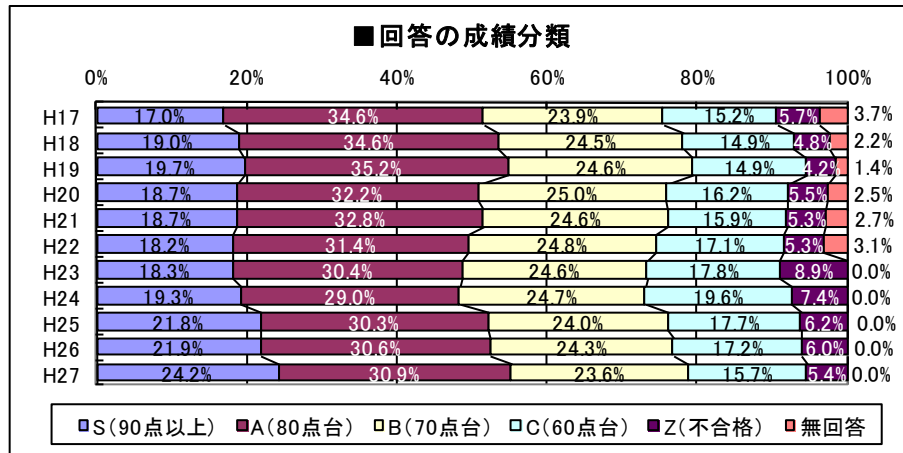
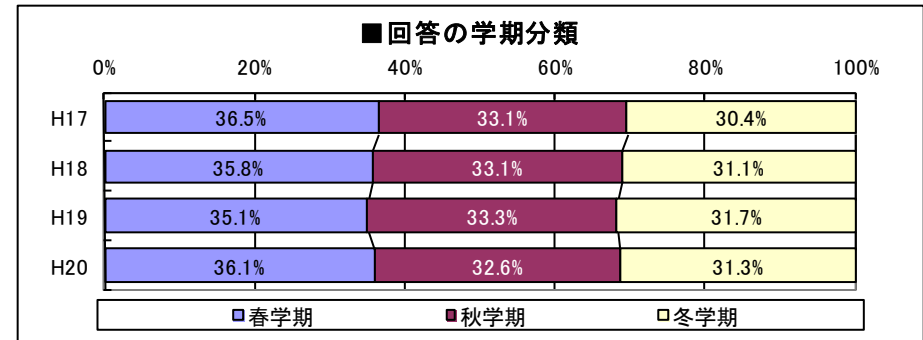
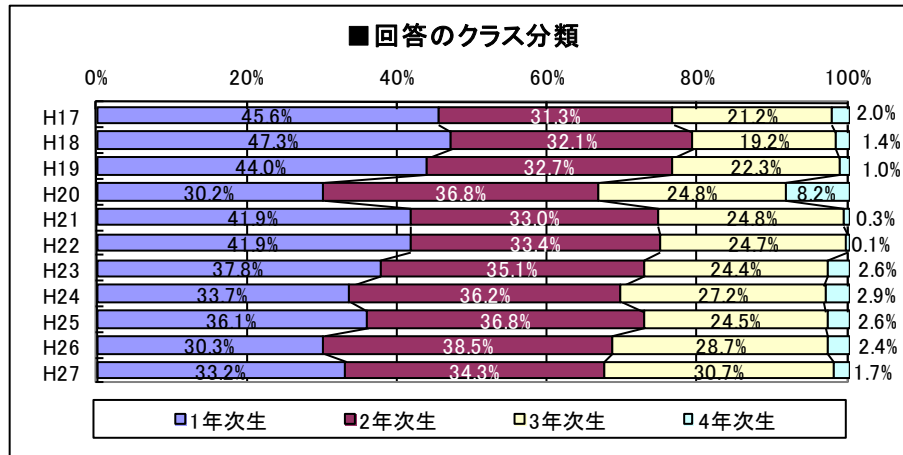
	新アンケート内容(平成17年度以降)	場面	内容
A	受講前、この科目に興味はありましたか。	受講前	学生の姿勢
B	最初の授業で学習支援計画書の説明を受けて、この授業の概要や進め方、身につく能力を理解できましたか。	受講当初	授業支援
C	授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか。	受講中	学生の姿勢
D	1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。 ※今年度の後期より選択肢を変更している。	受講中	学生の姿勢
E	教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか。	受講中	授業支援
F	課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるのに役立ちましたか。	受講中	授業支援
G	授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか。	受講中	授業内容
H	授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか。	受講中	授業内容
I	授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか。	受講中	授業支援
J	授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか。	受講中	教員の姿勢
K	授業を終えて、あなたはこの科目に満足していますか。	受講後	総合満足度

下記のような観点で以前の調査との比較を行った。

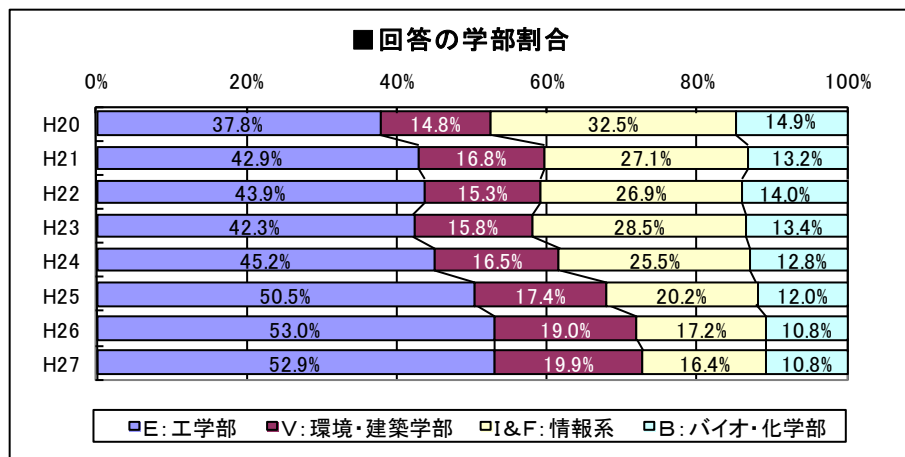
- 上記の通り平成17年度に質問の見直しを行っているため、一部の設問では以前との比較は行っていない。
- 新アンケートの「D」「F」「H」「K」の設問は平成15年度より内容が同じなので全ての期間に渡って比較ができるが、それら以外の設問は変更後のH17以降で比較を行った。
- 今年度(平成27年度)の後期より、設問D(1回の授業に対する予習・復習、課外学習活動はどの程度行いましたか。)の選択肢を変更している。これまでは「1. 2時間以上、2. 1～2時間、3. 1時間程度、4. 30分程度、5. 学習は特にしなかった」の5択であったが、後期から「1. 3時間以上、2. 2～3時間、3. 1～2時間、4. 1時間程度、5. 30分程度、6. 学習は特にしなかった」の6択とした。これは2時間以上を選択する学生の実態を、より詳細に分析するための変更となる。

# <1-2> 回答者の基本属性

- 回答をクラスで分類すると、「1年次生」が33.2%、「2年次生」が34.3%、「3年次生」が30.7%、「4年次生」は1.7%であり、「3年次生」の回答数が3割を超えて、これまでで最も多くなっていた。
- 回答の成績分類では、「S」が24.2%でH22からの増加傾向が続いて過去最高となり、「A」が30.9%、「B」が23.6%、「C」が15.7%、「Z」が5.4%となっていた。
- H21より前期と後期の2期制となったため、比較はH21年以降で行うが、今回は前回と全く同じで前期の回答が53.0%、後期は47.0%であった。



- 前回までは「1～3年次生」と「4年次生」で学部体制が異なっていたが、今回から全学年で統一されている。グラフ中の「I&F:情報系」は前回までは「F:情報フロンティア学部」と「I:情報学部」を含んでいたが、今回から「F:情報フロンティア学部」のみとなっている。
- 回答の学部別の割合を見ると、「E:工学部」が52.9%で前回とほぼ同じであり、「V:環境・建築学部」が19.9%、「I&F:情報系」が16.4%、「B:バイオ・化学部」も前回と同じで10.8%となっていた。



※上記はすべて4学部制の学部割合であり、H20年度は「1年次生のみ」、H21年度は「1年次生～2年次生」、H22年度は「1年次生～3年次生」、H23年度以降は「1年次生～4年次生」の割合となる。

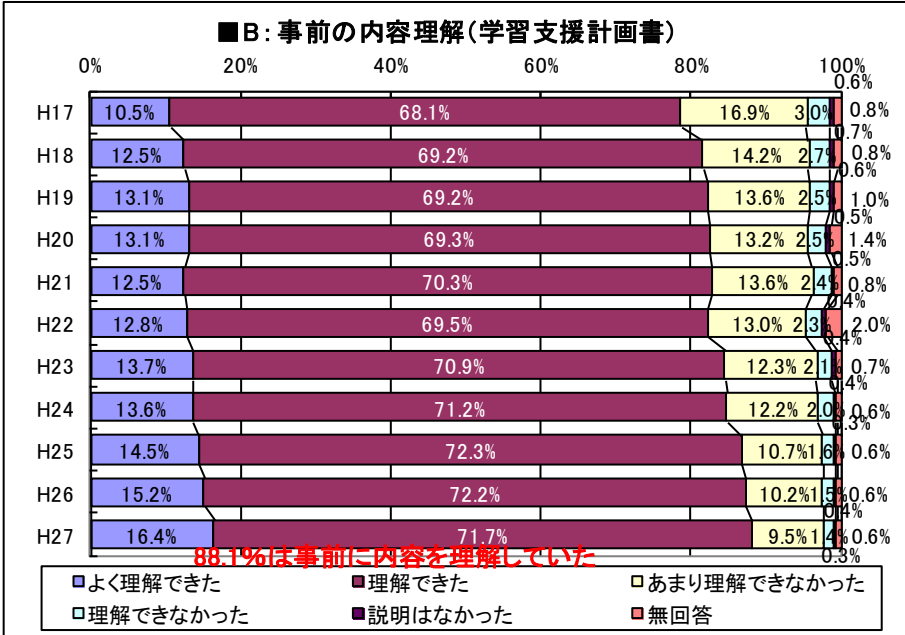
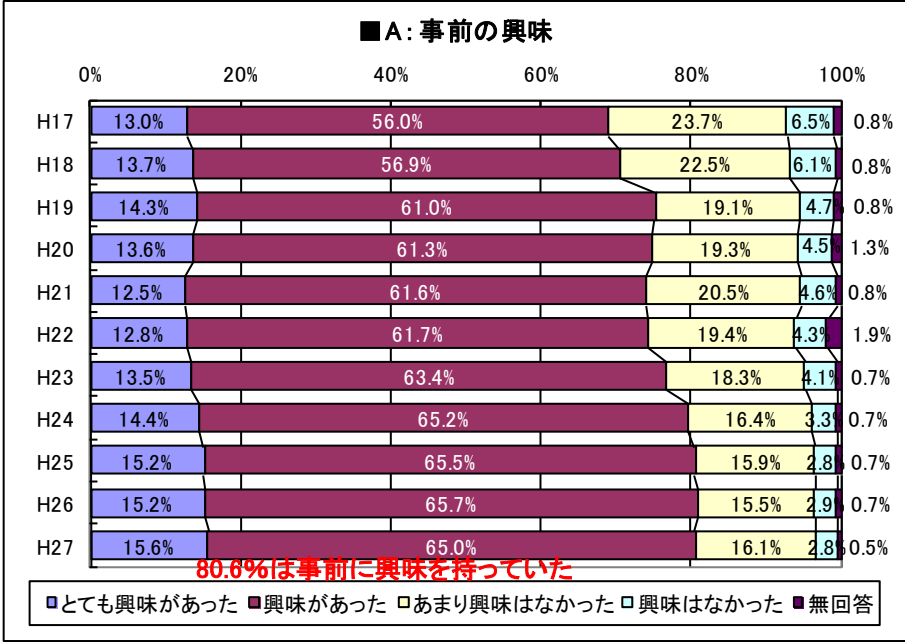
※H24年度以降は「I:情報学部」と「F:情報フロンティア学部」を一緒にして「情報系」として扱っている。

## <2> 基本的な分析

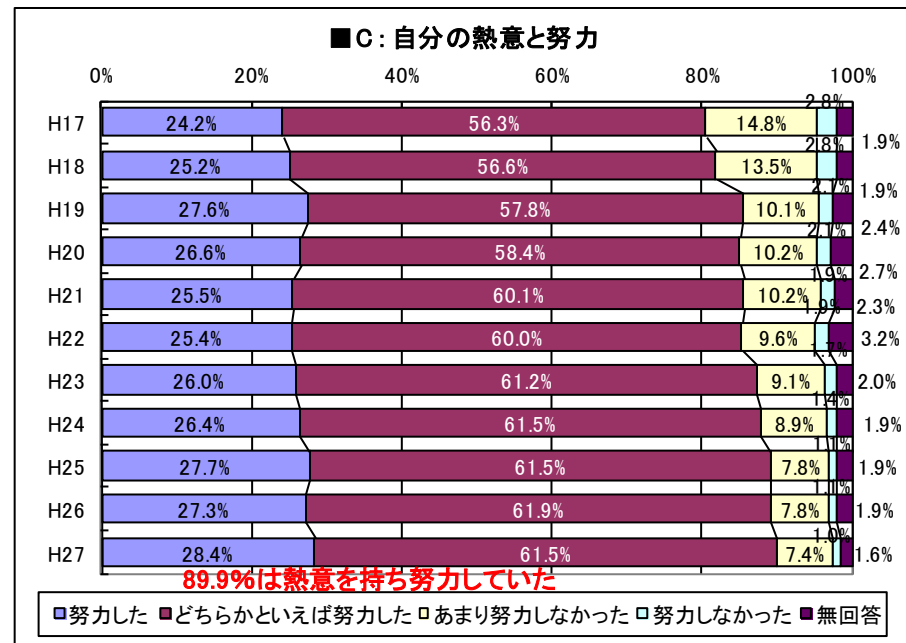


# <2-1>全項目の基本集計と経年変化

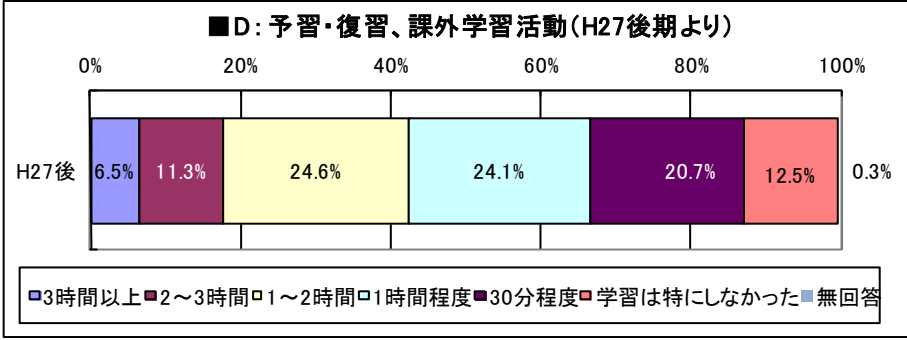
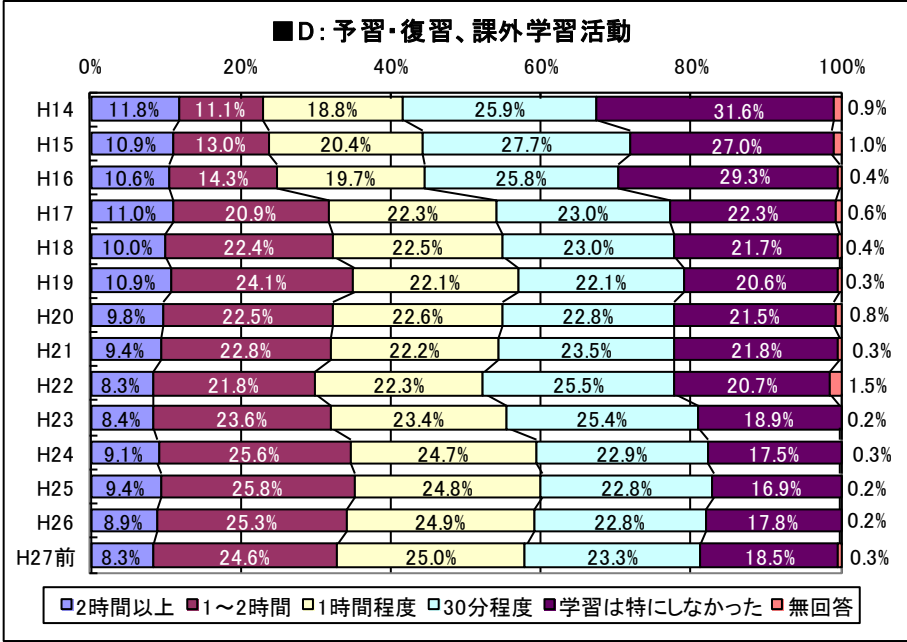
- 「A:事前の興味」に関しては、「とても興味があった」が15.6%、「興味があった」が65.0%であり、合計すると80.6%が事前に授業に興味を持っていたと答えていた。
- 前回、授業に興味を持っていたという割合は過去最高の80.9%であったが、今回はそれより0.3ポイントとわずかに低下しており、経年変化を見るとH24あたりから横這い状態が続いていた。
- 「B:事前の内容理解(学習支援計画書)」に関しては、「よく理解できた」が16.4%、「理解できた」が71.7%であり、合計すると88.1%が事前に授業の内容を理解していたと答えていた。
- 「事前の内容理解」はH23以降、肯定的な回答が増加する傾向が続いており、今回も前回を0.7ポイント上回って過去最高となっていた。



- 「C:自分の熱意と努力」については、「授業を受ける際、熱意を持って受講し、理解するために努力しましたか?」という質問をしているが、「努力した」という回答が28.4%、「どちらかといえば努力した」が61.5%で、合計すると89.9%が肯定的な回答であった。
- 以前と比較すると、H23から継続して肯定的な回答が増加する傾向が続いており、今回は前回を0.7ポイント上回って過去最高となった。

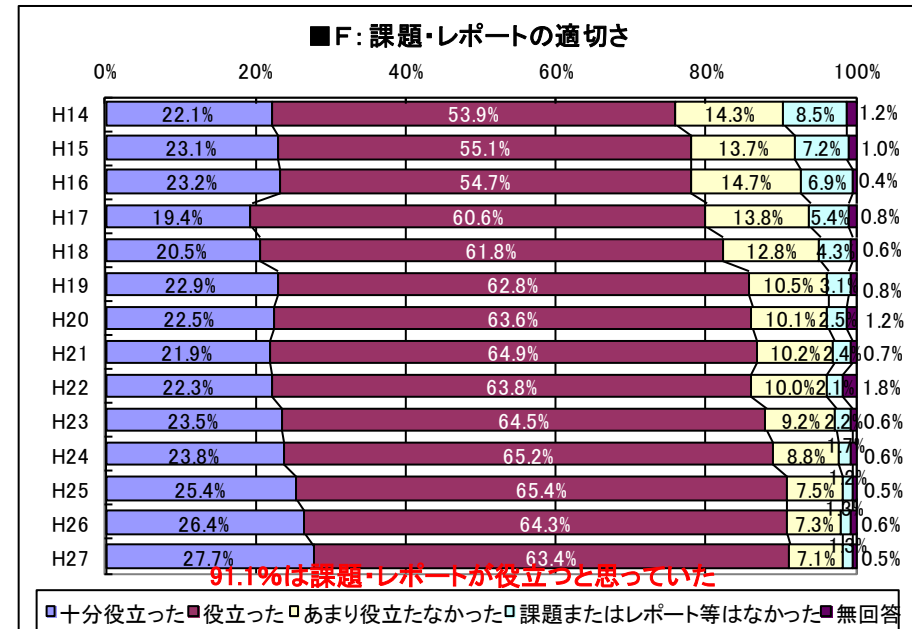
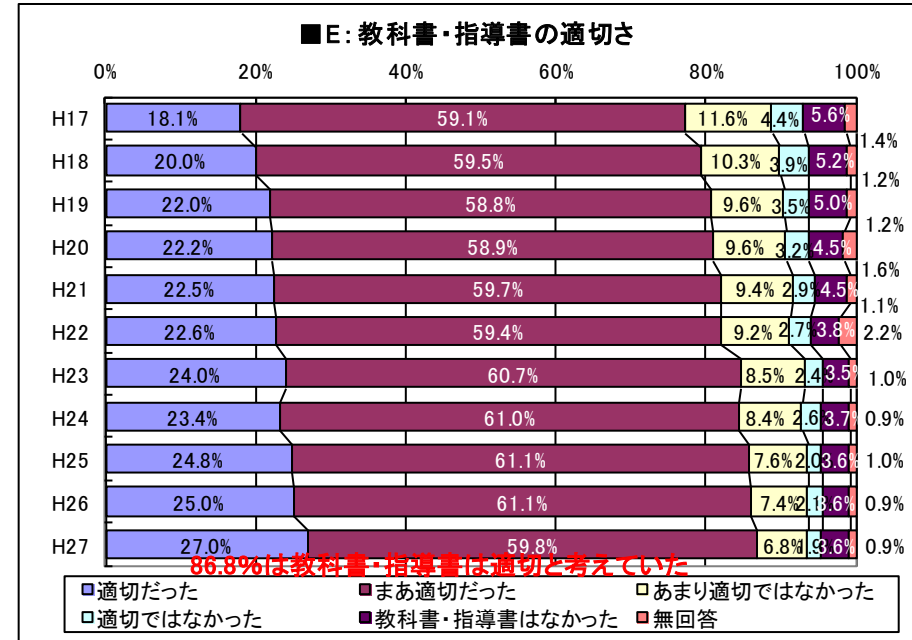


- 「D: 予習・復習、課外学習活動」については、「1回の授業に対する予習・復習、課外学習時間はどの程度行いましたか？」という質問をしているが、今回より選択肢が異なっている。
- 前回の、H27前期を見ると、「2時間以上」が8.3%、「1～2時間」が24.6%、「1時間程度」が25.0%、「30分程度」が23.3%であった。そして、「学習は特にしなかった」が18.5%であり、前々回を0.7ポイント上回っており、勉強時間はわずかに短くなる傾向が見られた。
- 今回のH27後期は、2時間以上勉強している学生の実態をより詳細に見るため、選択肢に「3時間以上」と「2～3時間」を加えた。そして今回の「3時間以上」は6.5%、「2～3時間」は11.3%となっていた。それ以降、「1～2時間」が24.6%、「1時間程度」が24.1%、「30分程度」が20.7%であり、「学習は特にしなかった」が12.5%であった。
- 選択肢が異なるがH27の前期と後期を比較すると、「学習は特にしなかった」は前期が18.5%、後期が12.5%であり、6.0ポイントの差となっていた。また、「2時間以上」は前期が8.3%、後期は合計で17.8%であり、大きな差が見られた。これが選択肢が変わったことによる差なのか、後期の授業の方が勉強時間が長いのかは不明である。



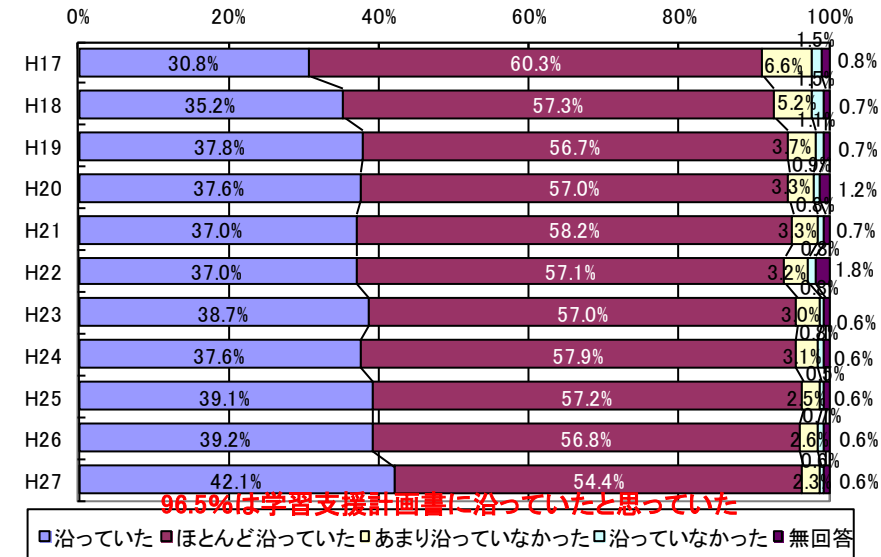
※H16までの設問文は「1回の授業に対する予習・復習はどの程度行いましたか」であった。  
 ※H27後期は選択肢は変わったが、設問文は変わっていない。

- 「E:教科書・指導書の適切さ」については、「教科書・指導書の内容は授業の理解のために適切でしたか？」という質問をしているが、「適切だった」が27.0%、「まあ適切だった」が59.8%であり、合計すると86.8%が肯定的な意見であり、教科書・指導書の評価は非常に高かった。
- 肯定的な意見は前回は0.7ポイント上回って過去最高であり、調査開始から継続的に評価が上がる傾向が続いていた。
- 「F:課題・レポートの適切さ」については、「課題またはレポート等は授業内容の理解を深めるために役立ちましたか？」という質問をしているが、「十分役立った」が27.7%、「役立った」が63.4%で、合計すると91.1%が肯定的な意見であり、課題・レポートの評価も非常に高かった。
- 経年変化を見ると、肯定的な意見は前回は0.4ポイント上回って過去最高となっていた。例外はあるものの評価は調査開始から上がる傾向が続いており、ここ3年間は横這い状態だった。

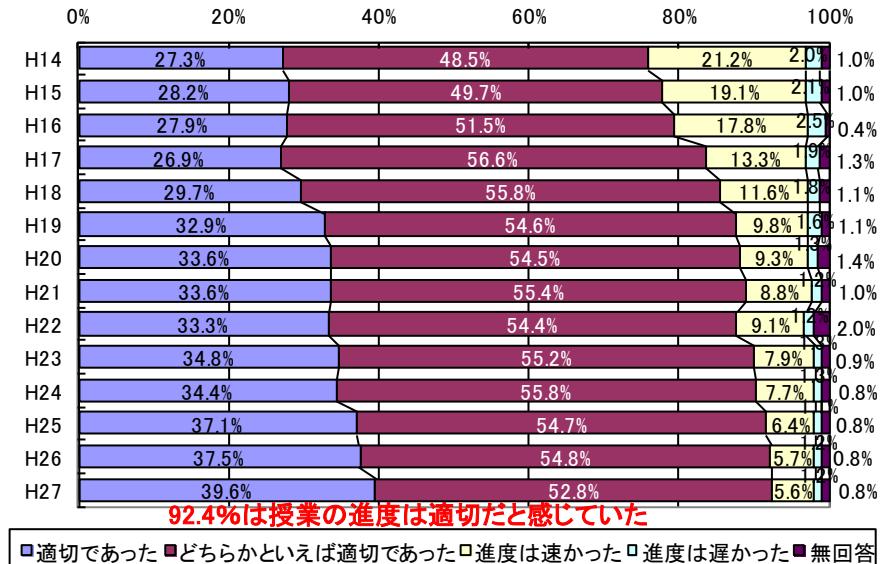


- 「G:学習支援計画書との一致」については、「授業内容は学習支援計画書に沿っていましたか?」という質問をしているが、「沿っていた」が42.1%、「ほとんど沿っていた」が54.4%で、合わせると96.5%が肯定的な意見であり、ほとんどの学生が学習支援計画書と一致していると評価していた。
- 前回と比較すると、肯定的な意見の合計は0.5ポイント上回っていた。そして、「沿っていた」は前回は2.9ポイント上回って初めて4割を超えており、非常に高い評価が継続していた。
- 「H:授業の進度の適切さ」については、「授業の進度は内容を理解するのに適切でしたか?」という質問をしているが、「適切であった」が39.6%、「どちらかといえば適切であった」が52.8%で、合計すると92.4%が肯定的な意見であり、授業の進度に大きな問題はなさそうであった。
- 前回と比較すると、肯定的な意見は0.1ポイント上回って、ほぼ横這いとなっており、高い評価が継続していた。

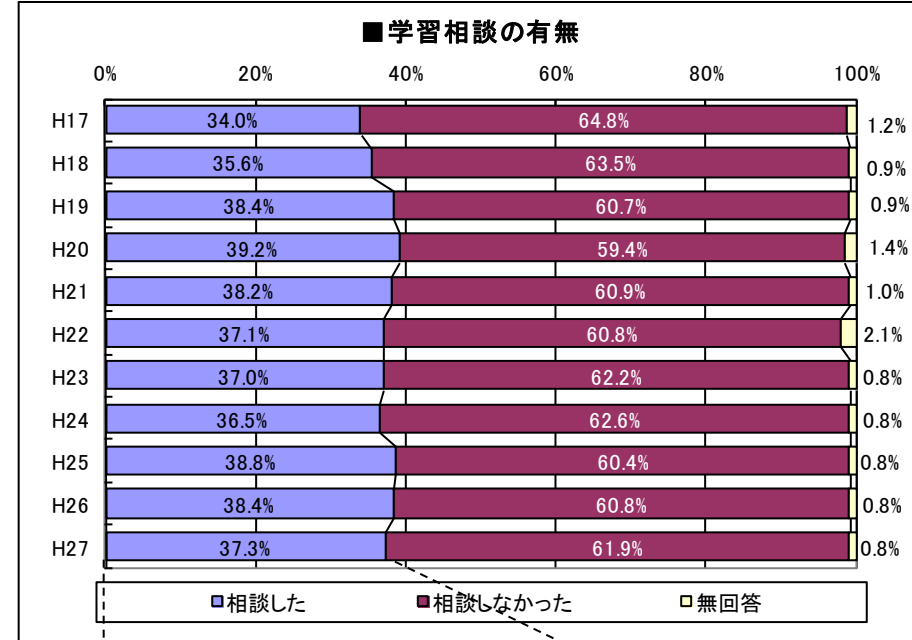
■ G: 学習支援計画書との一致



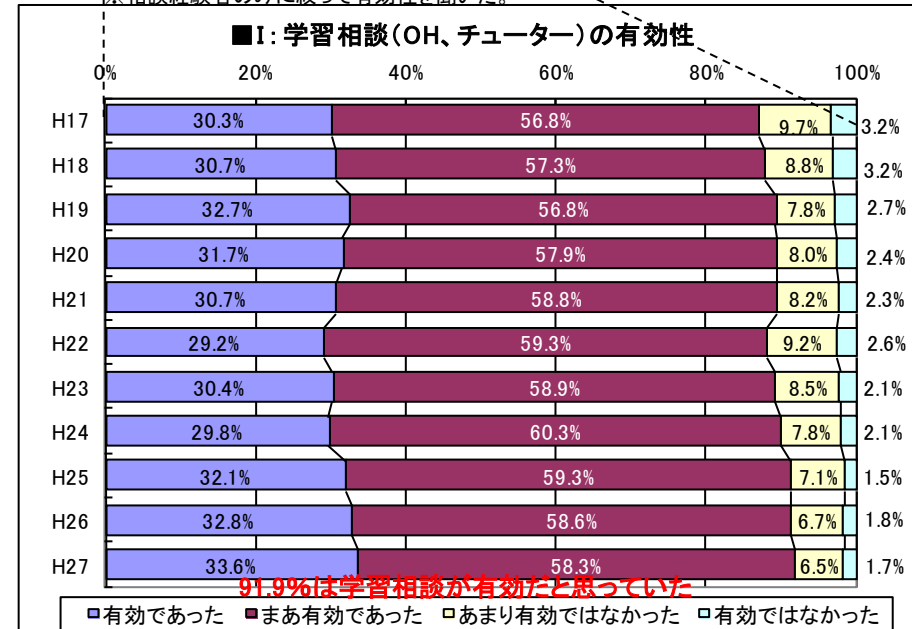
■ H: 授業の進度の適切さ



- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「授業内容をよく理解するための、学習相談(オフィスアワー、チューターなど)は有効でしたか?」という質問であるが、「学習相談の有無」だけを見ると、「相談した」が37.3%、「相談しなかった」が61.9%であった。
- 「相談した」の割合を見ると、前回より1.1ポイント下回っていたが、ほぼ横這いとなっていた。
- 学習相談をした学生の「学習相談の有効性」の評価を見ると、「有効であった」が33.6%、「まあ有効であった」が58.3%で、合計すると91.9%が肯定的な意見であり、学習相談の評価は非常に高いと言える。
- 学習相談が有効であるという意見は前回は0.5ポイント上回って過去最高となっていた。そして、わずかずつではあるが評価が上がる傾向が継続していた。



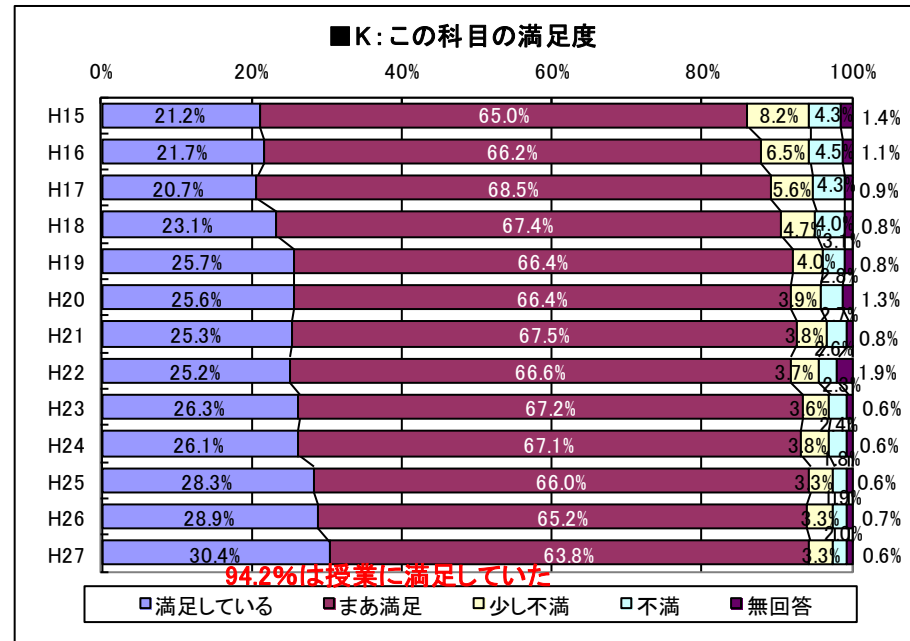
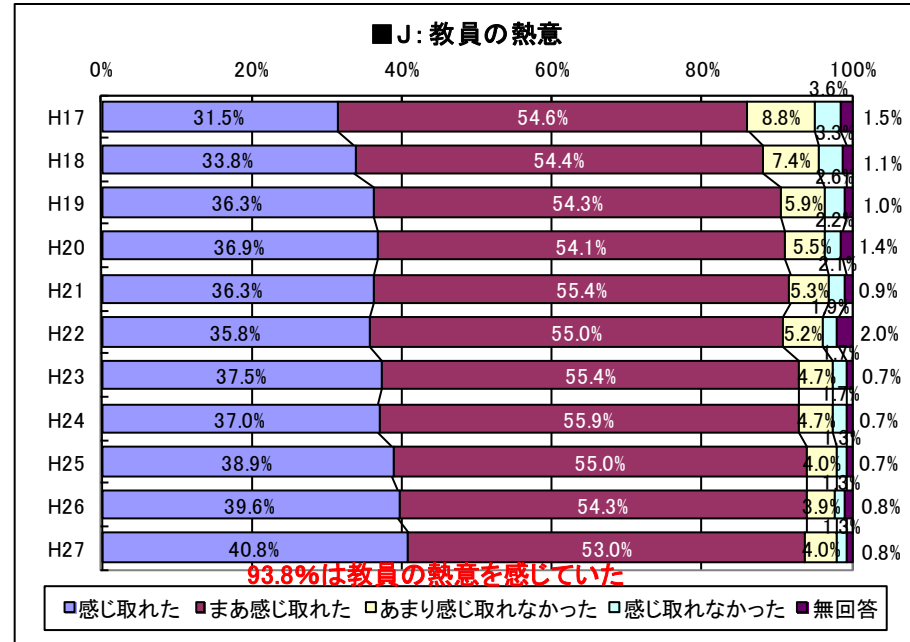
※相談経験者のみに絞って有効性を聞いた。



- 「J:教員の熱意」については、「授業や学習相談を通して、教員の熱意を感じることができましたか?」という質問をしているが、「感じ取れた」が40.8%、「まあ感じ取れた」が53.0%であり、合計すると93.8%が教員の熱意を感じたという意見であった。
- 教員の熱意を感じ取れたという意見は前回を0.1ポイント下回っていたが、以前と比較するとH23あたりから横這い傾向が続いていた。ただし、「感じ取れた」だけを見るとH22あたりからわずかながら増加する傾向が続いており、今回は初めて4割を超えていた。
- 「K:この科目の満足度」に関しては、「満足している」が30.4%、「まあ満足」が63.8%であり、合計すると94.2%が授業に満足しているという回答であった。
- 前回と比較すると、満足しているという割合は0.1ポイント増加しており、満足度は過去最高となったが、ほぼ横這い状態が続いていた。ただし、「満足している」だけを見るとH24あたりから確実に増加しており、今回は初めて3割を超えていた。

■満足している層の経年変化

年度	満足割合	前年度との差
H15	86.2%	—
H16	87.9%	+1.7
H17	89.1%	+1.3
H18	90.5%	+1.4
H19	92.1%	+1.5
H20	92.0%	-0.1
H21	92.8%	+0.8
H22	91.8%	-1.0
H23	93.5%	+1.7
H24	93.2%	-0.3
H25	94.3%	+1.1
H26	94.1%	-0.2
H27	94.2%	+0.1





# <2-2> 肯定的な意見の経年変化比較

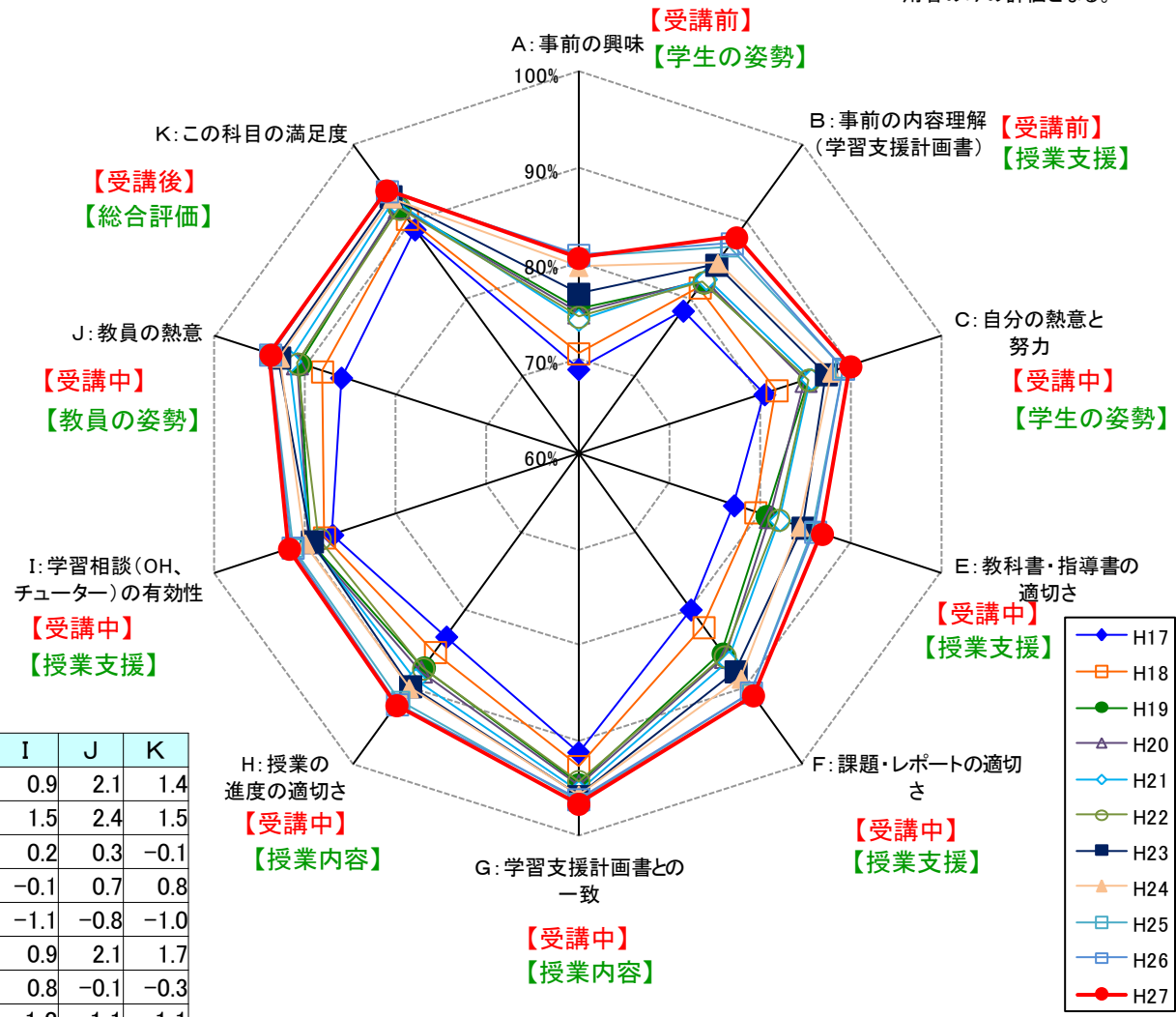
- 肯定的意見の合計をレーダーチャートで比較した。比較のできない「D:予習・復習、課外学習活動」は除外し、「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は利用経験者の評価だけを抽出している。
- 以前と比べると、ほとんどの項目が前回を上回り、「A:事前の興味」と「J:教員の熱意」がわずかに前回を下回ったものの、それ以外は前回を上回り過去最高となっていた。ただし、前回からの上昇も最大で0.7ポイントであり、評価が高い状態で横這いが続いているとも言える。
- 項目別に比較すると、全体的な傾向には大きな変化は見られず、「A:事前の興味」では肯定的な意見がやや少なく、「G:学習支援計画書との一致」「J:教員の熱意」「K:この科目の満足度」が高いという傾向は変わっていなかった。

■ 肯定的な意見の差(単位:ポイント)

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
H17からH18の上昇	1.6	3.0	1.3	2.4	2.3	1.5	2.0	0.9	2.1	1.4
H18からH19の上昇	4.7	0.7	3.6	1.2	3.4	1.9	2.0	1.5	2.4	1.5
H19からH20の上昇	-0.4	0.2	-0.4	0.3	0.4	0.1	0.5	0.2	0.3	-0.1
H20からH21の上昇	-0.8	0.2	0.6	1.1	0.6	0.6	1.0	-0.1	0.7	0.8
H21からH22の上昇	0.3	-0.4	-0.3	-0.1	-0.7	-1.0	-1.4	-1.1	-0.8	-1.0
H22からH23の上昇	2.4	2.2	1.9	2.7	1.9	1.6	2.3	0.9	2.1	1.7
H23からH24の上昇	2.8	0.2	0.6	-0.3	0.9	-0.2	0.3	0.8	-0.1	-0.3
H24からH25の上昇	1.1	2.0	1.3	1.5	1.8	0.8	1.5	1.3	1.1	1.1
H25からH26の上昇	0.3	0.5	-0.1	0.2	0.0	-0.3	0.6	0.1	0.0	-0.2
H26からH27の上昇	-0.3	0.7	0.7	0.7	0.4	0.5	0.1	0.5	-0.1	0.1

■ 比較可能な項目の経年変化比較レーダーチャート

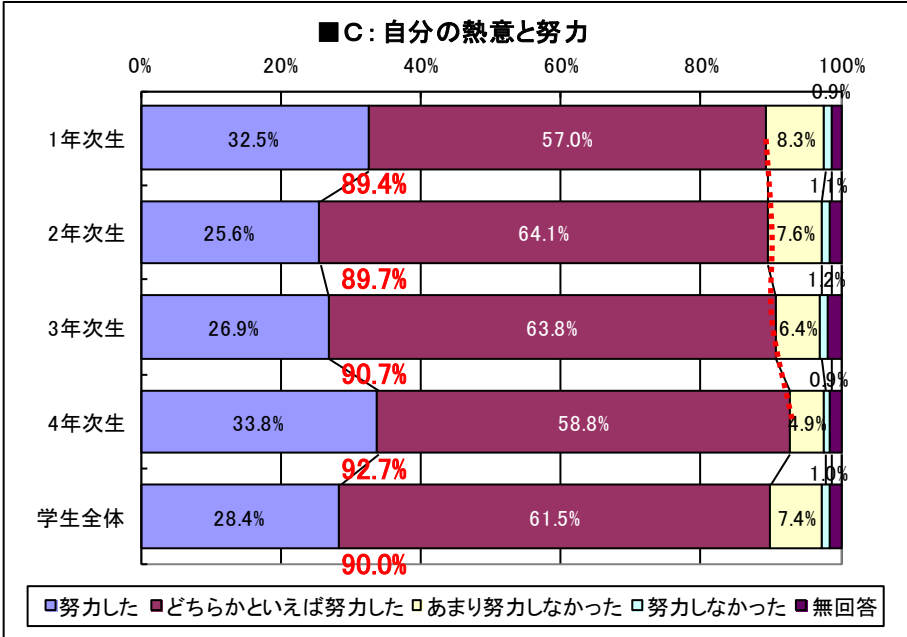
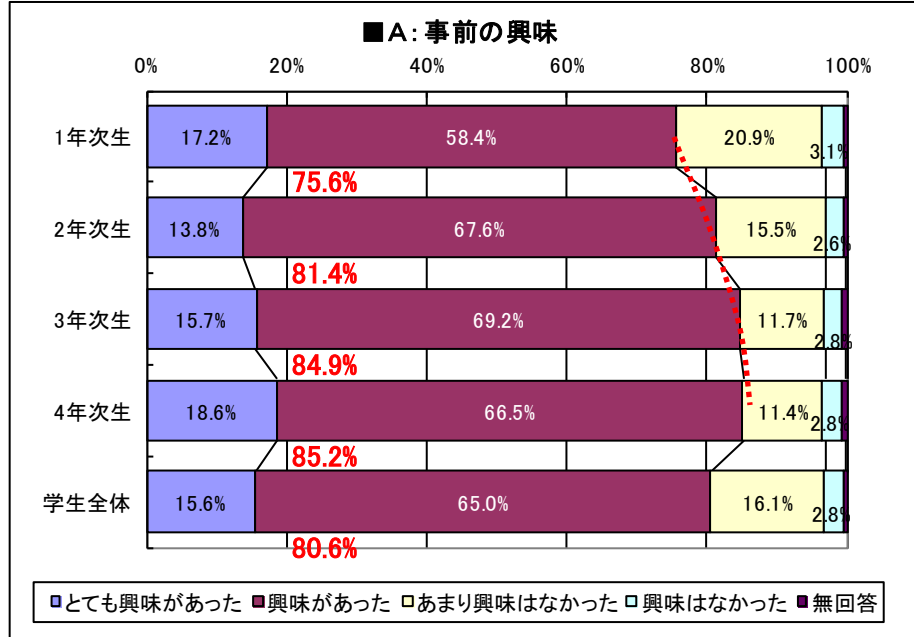
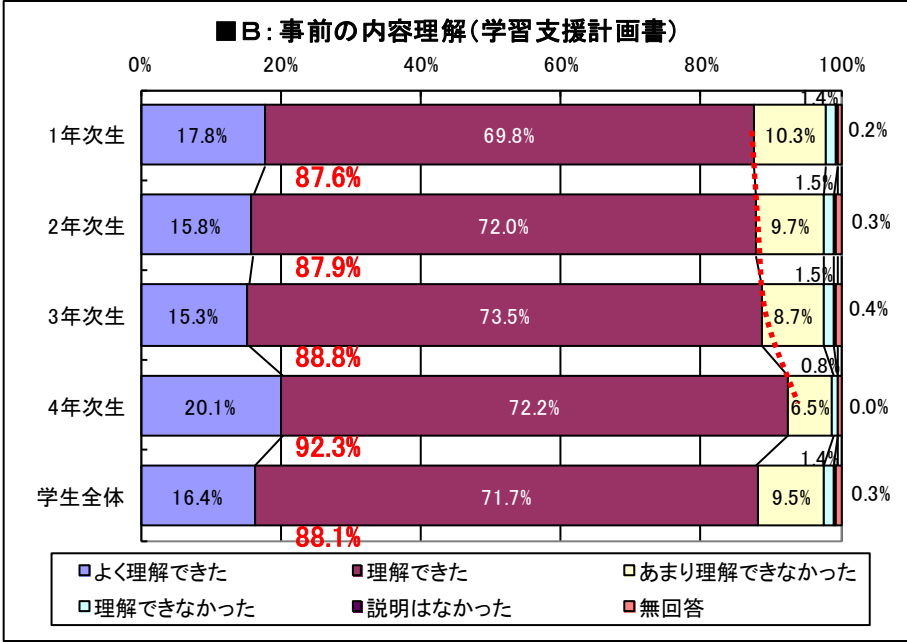
※「I:学習相談の有効性」は「相談しなかった」を除いた上で「有効であった」「まあ有効であった」の割合を集計した。利用者からのみの評価となる。



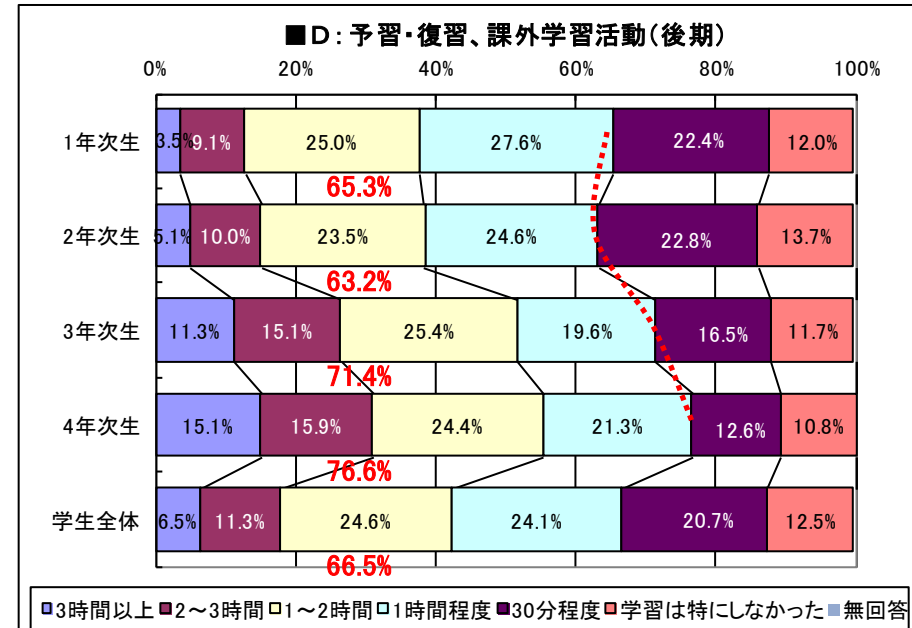
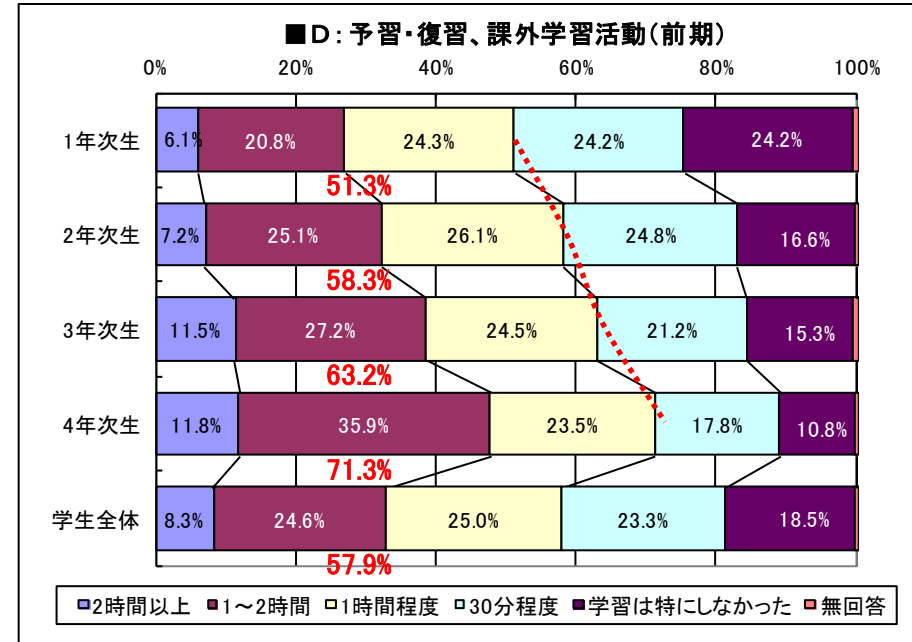


### <3> 学年別の分析

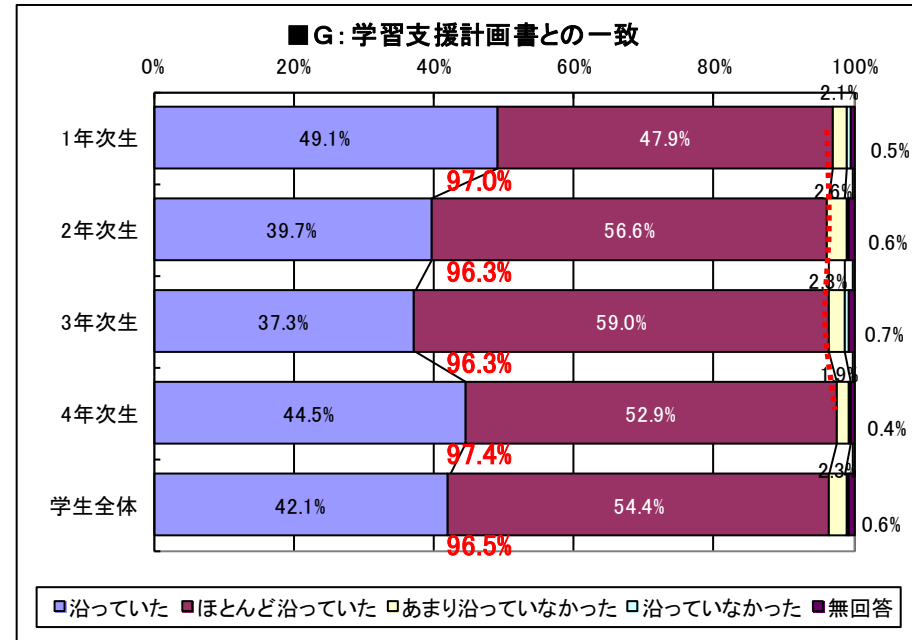
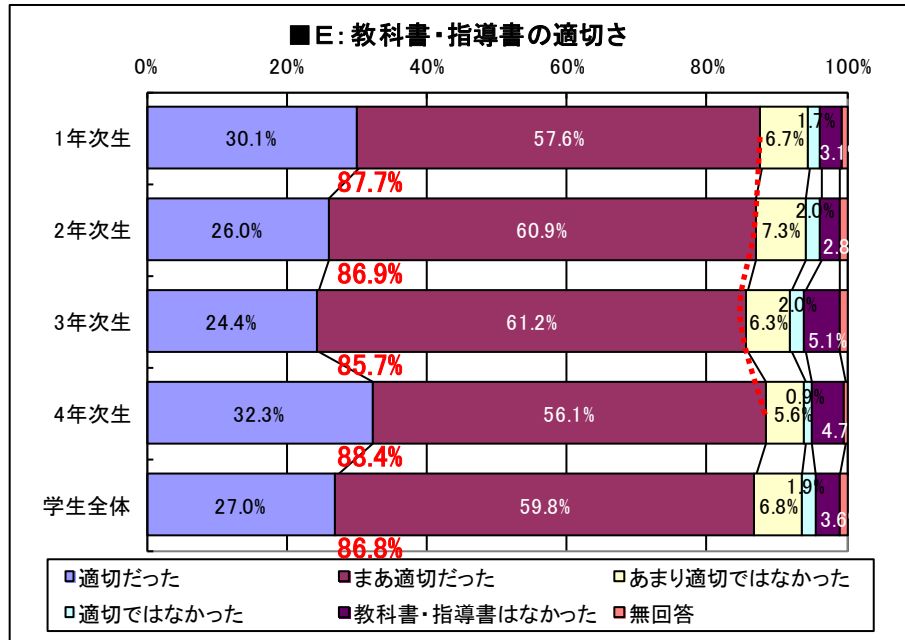
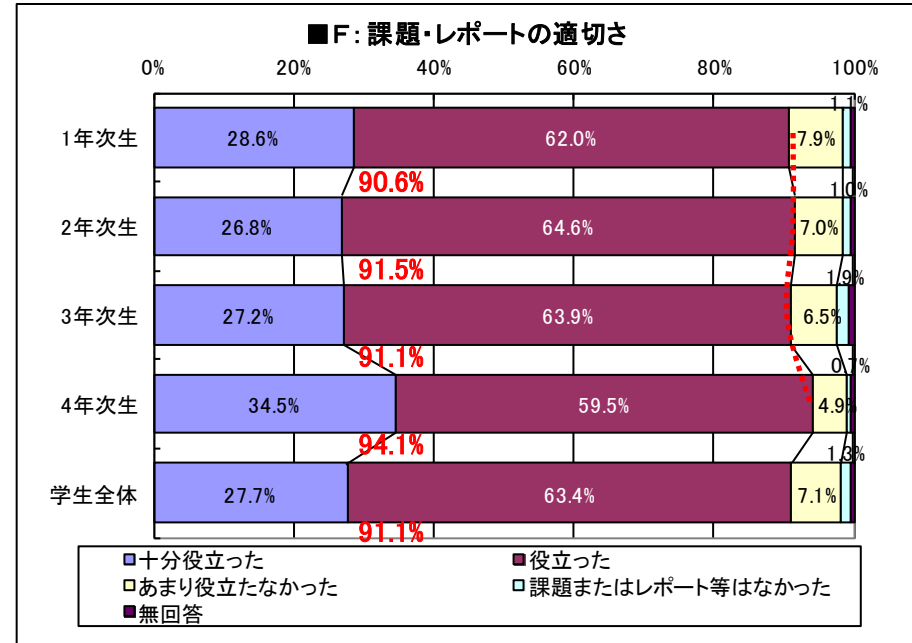
- 「A:事前の興味」の学年別比較を見ると、肯定的な意見は「1年次生」が75.6%、「2年次生」が81.4%、「3年次生」が84.9%、「4年次生」が85.2%となっており、高学年ほど授業に対する興味が増す傾向が見られた。ただし、「とても興味があった」という回答だけを見ると、「1年次生」で17.2%と「4年次生」に次ぐ高さであり、「1年次生」でも強い興味を持っている学生が少なくないことが分かった。
- 「B:事前の内容理解」でも肯定的な意見は「1年次生」が最も低く87.6%で、高学年ほど増加して「4年次生」では92.3%となり、高学年ほど事前の内容理解が進んでいる状況が確認できた。ただし、「1年次生」と「3年次生」の差は1.2ポイントであり、1～3年次ではほぼ横並びと言える。
- 「C:自分の熱意と努力」も高学年ほど肯定的な意見が多かった。ただし、「1年次生」と「4年次生」の差は3.3ポイントと小さく、ほぼ横並びと言える。ただし、「努力した」だけを見ると「1年次生」は32.5%と、「4年次生」に次ぐ高さであり、「1年次生」でも強く努力している学生が少なくなかった。



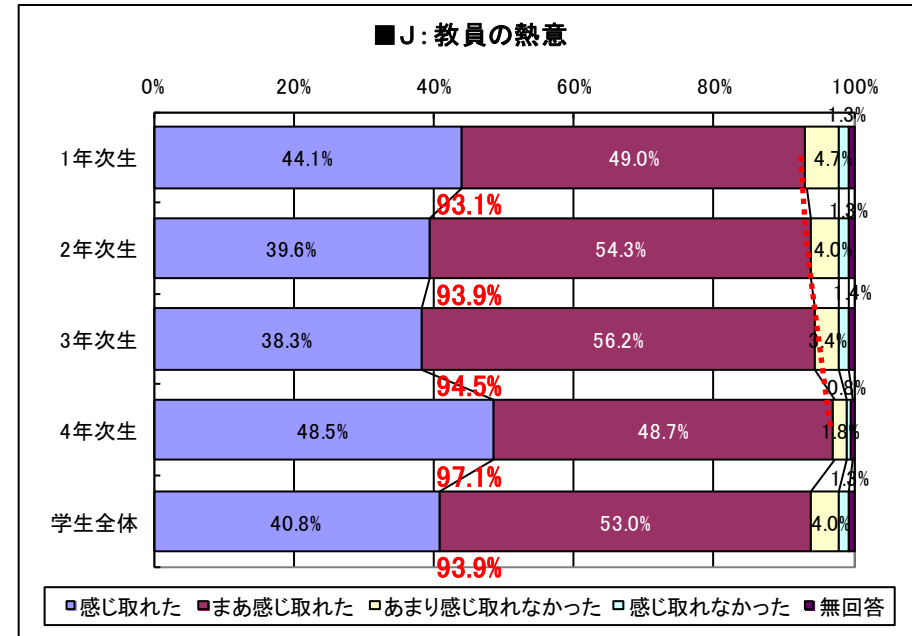
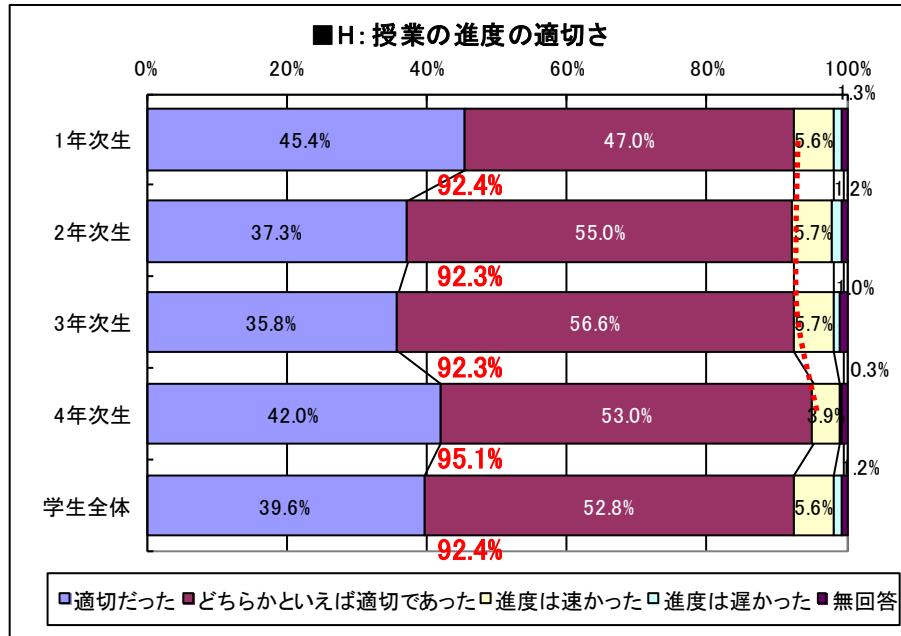
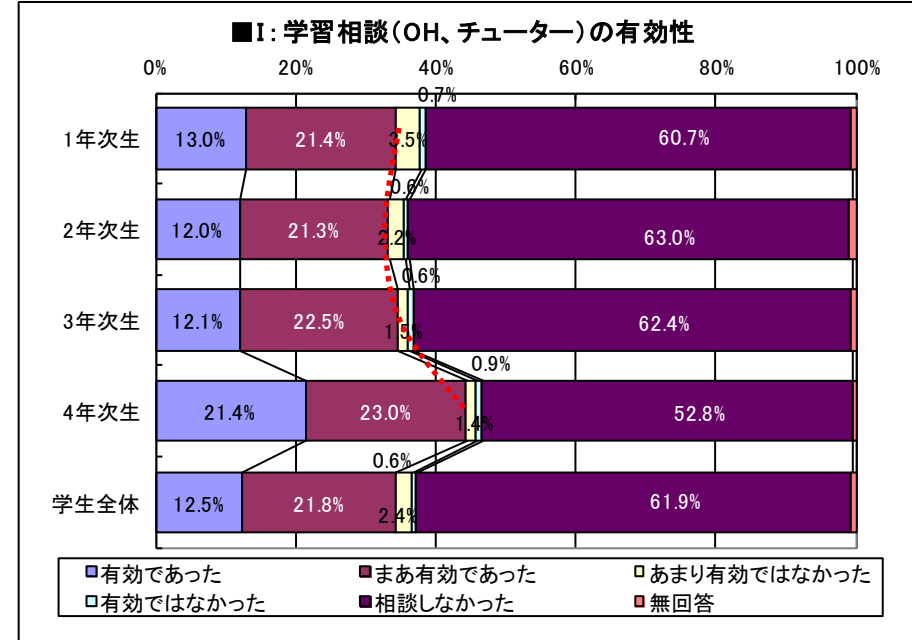
- 「D:予習・復習、課外学習活動」は「前期」と「後期」で選択肢が異なるため、別々に学年別の比較を行った。
- 「前期」を「1時間程度」までの合計で比較すると、「1年次生」が51.3%、「2年次生」が58.3%、「3年次生」が63.2%、「4年次生」が71.3%であり、高学年の方が学習時間が長いことが分かった。また、「1年次生」と「4年次生」の差は20.0ポイントと非常に大きく、「1年次生」では「学習は特にしなかった」という回答が24.2%を占めていた。
- 「後期」も「1時間程度」までの合計で比較すると、「2年次生」が63.2%で最も少なく、次いで「1年次生」が65.3%、「3年次生」が71.4%、「4年次生」が76.6%となっていた。
- 「前期」と「後期」を「学生全体」で比較すると、「後期」の方が学習時間が長くなっており、学年別に見ると「3年次生」と「4年次生」は「前期」と「後期」で差はなかったが、「1年次生」と「2年次生」では差が大きく、特に「1年次生」は「後期」で長くなっていた。
- 選択肢が変わっているので比較は難しいが、「1年次生」は「後期」の授業でカリキュラムの内容の違いや大学に慣れて来て、学習時間が伸びているといった状況が考えられる。



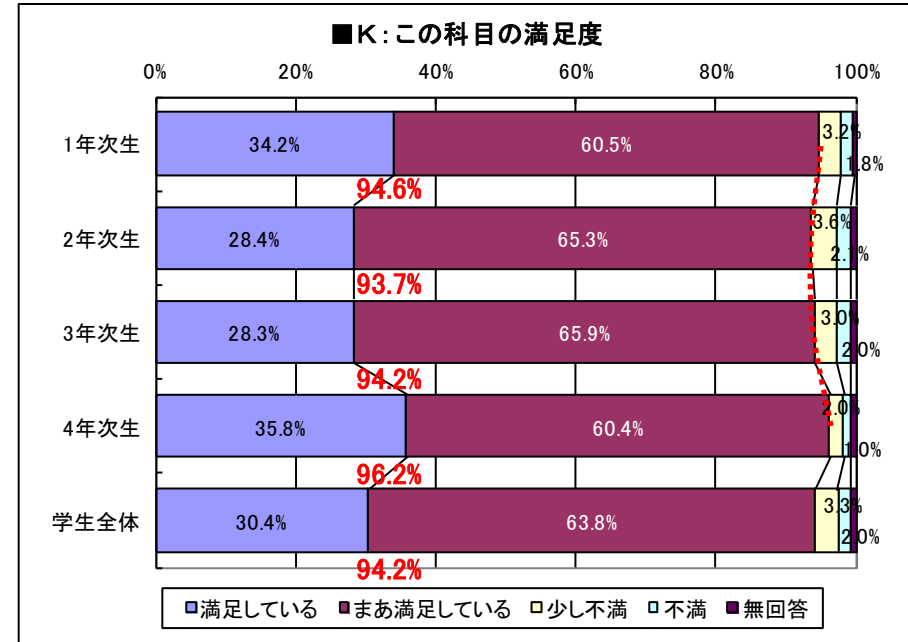
- 「E:教科書・指導書の適切さ」を肯定的な意見の合計で比較すると、最も高かったのは「4年次生」の88.4%であった。「4年次生」は特に、「適切だった」の割合が32.3%と、高さが目立った。一方、最も低かったのは「3年次生」の85.7%であったが、「4年次生」との差は2.7ポイントと、あまり大きくはなかった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」も学年による差は小さく、肯定的な意見が最も多い「4年次生」の94.1%と、最も少ない「1年次生」(90.6%)との差は3.5ポイントであった。いずれの学年も「課題・レポート」を高く評価していたものの、「4年次生」は「十分役立った」が34.5%と、他に学年と比べて高さが目立っていた。
- 「G:学習支援計画書との一致」も学年による差は非常に小さく、いずれも学年でも肯定的な意見が95%を超えており、全体的に非常に評価は高いと言える。「沿っていた」だけで比較すると、「1年次生」が49.1%で目立って高い評価となっていた。



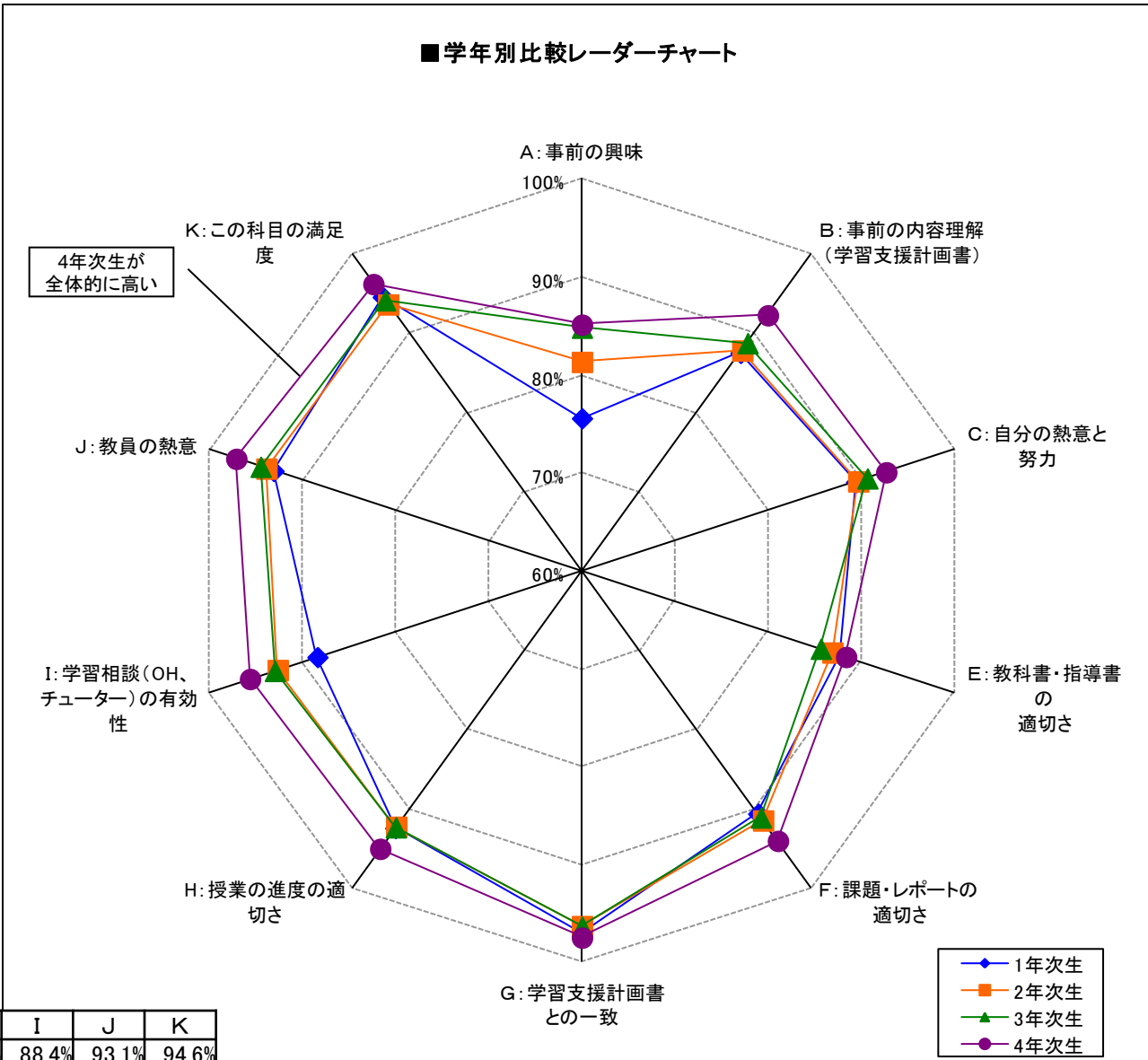
- 「H:授業の進度の適切さ」も学年による差はあまり見られず、肯定的な意見の合計は全学年で90.0%を超えており、進度に大きな問題はなさそうであった。「適切だった」だけを見ると「1年次生」が45.4%と高く、最も低い「3年次生」の35.8%との差は9.6ポイントであった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」で「相談しなかった」の割合を比較すると、「1年次生」から「3年次生」は6割程度で大きな差は見られなかったが、「4年次生」は52.8%とやや少なく、積極的な学習相談の利用がうかがえた。そして、「あまり有効ではなかった」「有効ではなかった」という意見はいずれの学年でも非常に少なく、利用者からの評価は非常に高かった。
- 「J:教員の熱意」に関しても学年間の差は少なかったが、教員の熱意を感じ取れたという意見は「1年次生」が93.1%、「2年次生」が93.9%、「3年次生」が94.5%、「4年次生」が97.1%と、高学年になるほど確実に増加していた。しかし、いずれの学年でも9割以上が肯定的な意見であり、熱意はしっかりと伝わっていることが分かった。



- 「K:この科目の満足度」も学年間の差は非常に小さく、いずれの学年も9割以上が肯定的であり、授業の満足度は非常に高いと言える。最も満足度が高かったのは「4年次生」の96.2%であり、次いで「1年次生」が94.6%、「3年次生」が94.2%、「2年次生」が93.7%と続いております。学年との相関関係は見られなかった。そして、「満足している」だけを見ると「4年次生」が35.8%、「1年次生」が34.2%であり、強く満足している様子が見えかけた。



- 肯定的な意見の合計を学年別にレーダーチャートにプロットして比較を行った。
- 全体的の傾向を見ると、全ての項目で「4年次生」が最も高くなっており、授業に対する事前の準備、受講中の姿勢、授業内容の評価、満足度など、いずれも非常に高い割合となっていた。
- 一方、低いものが目立っていたのは「1年次生」で、「A:事前の興味」と「I:学習相談の有効性」の低さは特に目立っていた。
- 「2年次生」と「3年次生」は全体的に差が非常に小さく、よく似た傾向にあったが、「A:事前の興味」に関しては「2年次生」がやや低めであった。



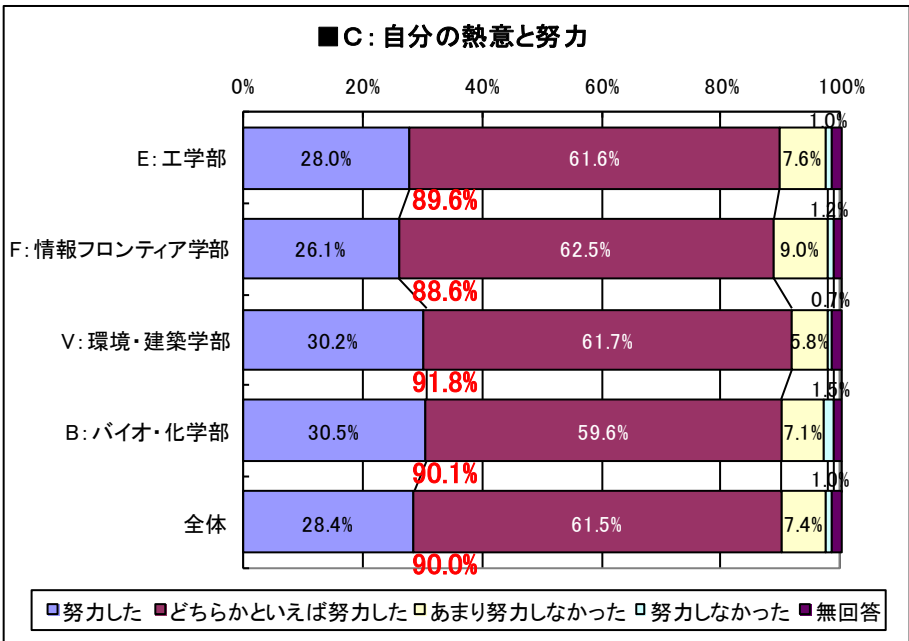
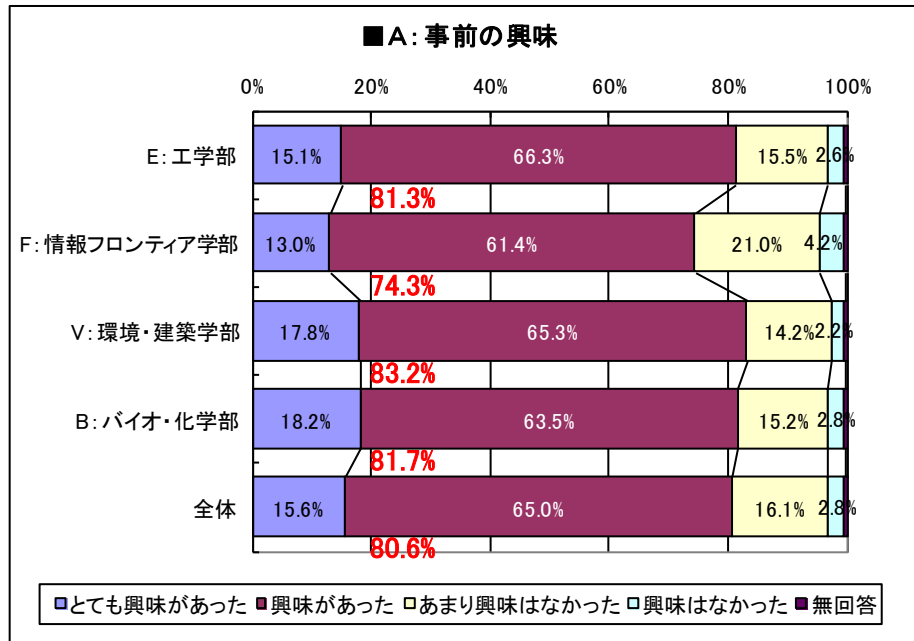
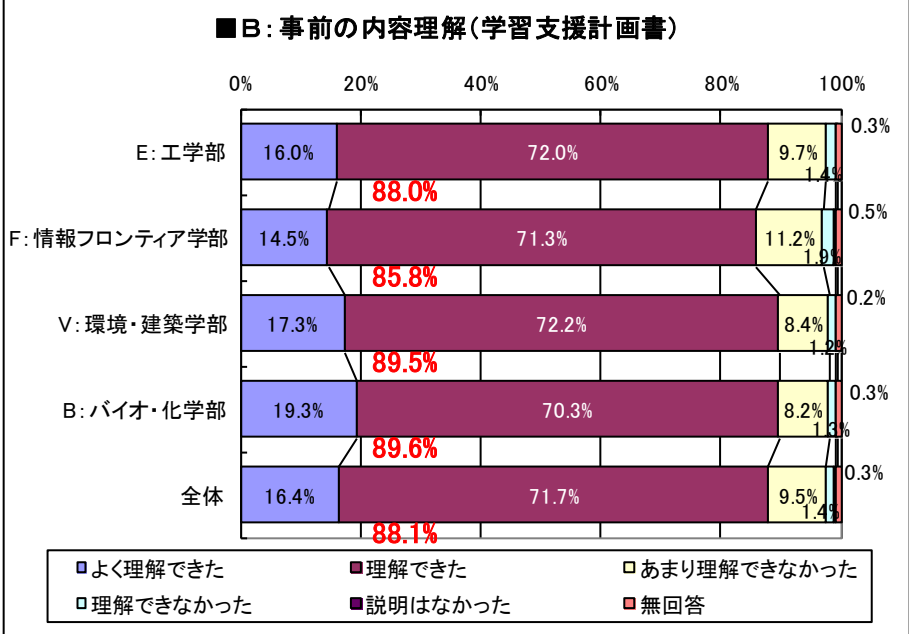
■ 学年別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
1年次生	75.6%	87.6%	89.4%	87.7%	90.6%	97.0%	92.4%	88.4%	93.1%	94.6%
2年次生	81.4%	87.9%	89.7%	86.9%	91.5%	96.3%	92.3%	92.7%	93.9%	93.7%
3年次生	84.9%	88.8%	90.7%	85.7%	91.1%	96.3%	92.3%	93.0%	94.5%	94.2%
4年次生	85.2%	92.3%	92.7%	88.4%	94.1%	97.4%	95.1%	95.6%	97.1%	96.2%

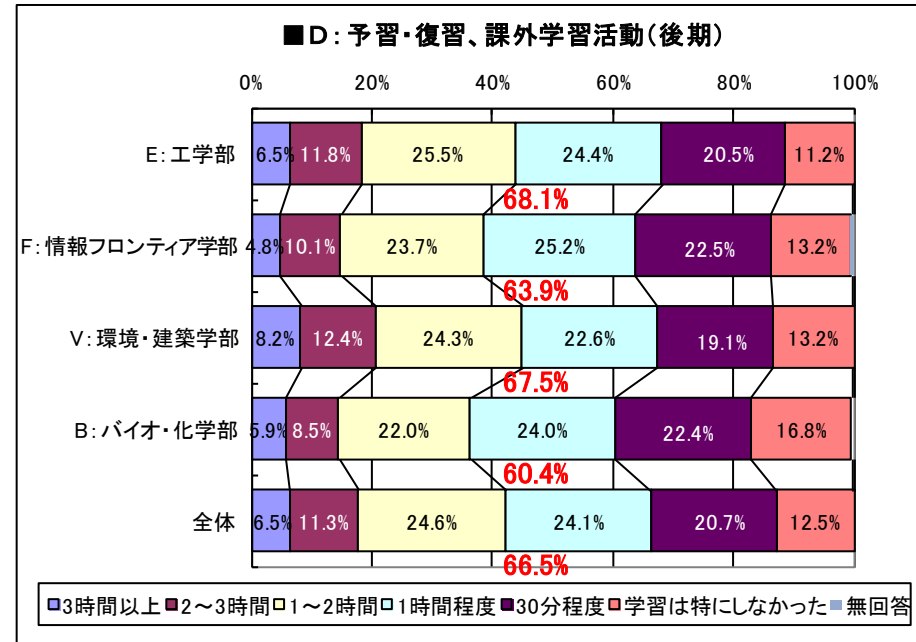
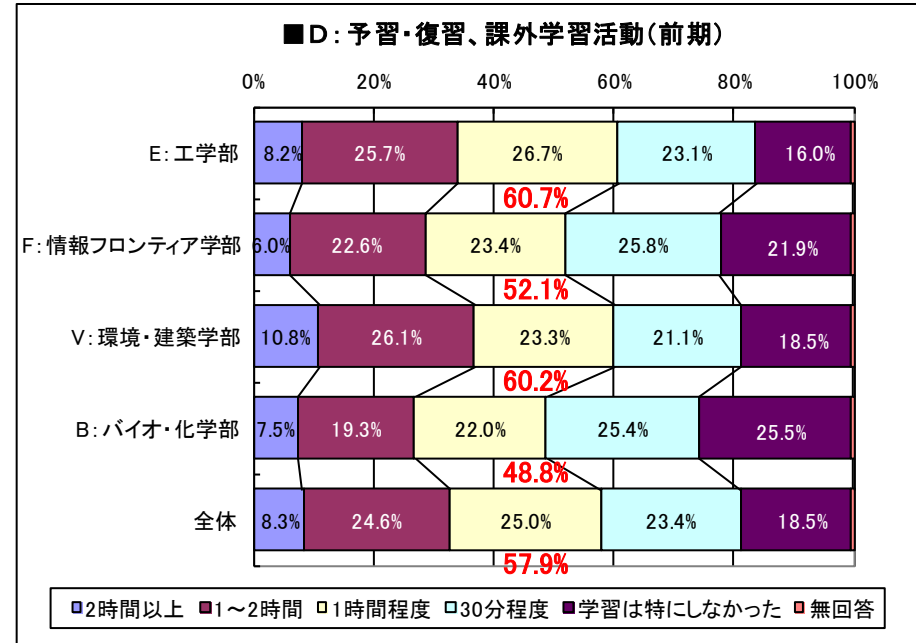
## <4> 学部・学科別の分析



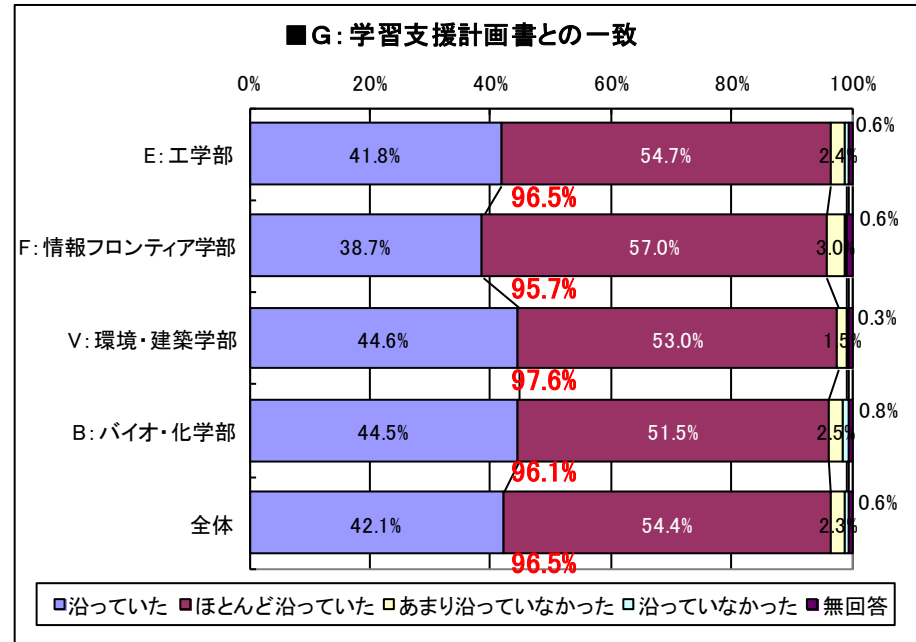
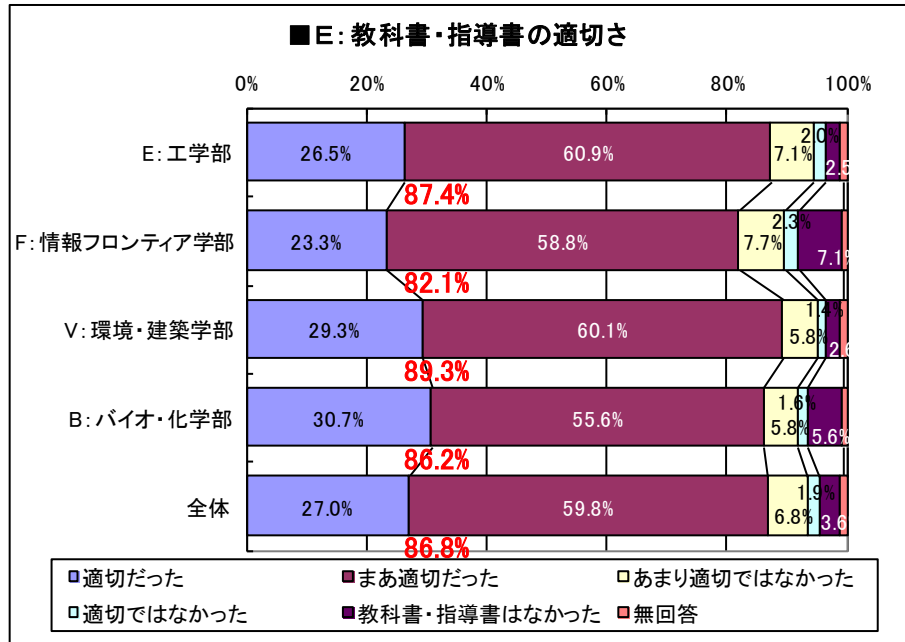
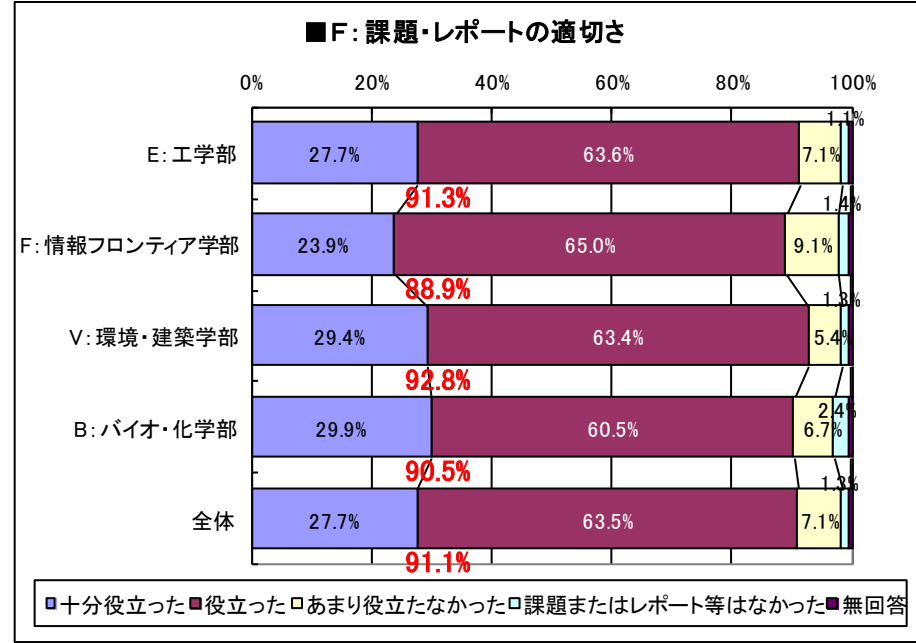
- 今回は全学年が新しい学部構成になるため、学部別の集計は全て一緒にすることができた。
- 「A:事前の興味」では「F:情報フロンティア学部」で肯定的な意見が74.3%とやや低かった。他の3学部は8割以上が肯定的な意見で、似た結果となっていたが、「V:環境・建築学部」が83.2%で、やや高かった。
- 「B:事前の内容理解」は4学部共に肯定的な意見が8割の後半であり、いずれも高い割合だった。中でも「B:バイオ・化学部」が89.6%、「V:環境・建築学部」が89.5%と高めとなっていた。
- 「C:自分の熱意と努力」も学部による差が小さく、いずれの学部も9割前後が肯定的な意見であり、努力している様子がうかがえた。中でも最も高かったのは「V:環境・建築学部」の91.8%、一方最も低かったのは「F:情報フロンティア学部」の88.6%であり、その差は3.2ポイントであった。



- 「D:予習・復習、課外学習活動」の「前期」に関して、「1時間程度」までの合計で比較すると、「E:工学部」が60.7%で最も多く、次にあまり差がなく「V:環境・建築学部」が60.2%で続いていた。そして、「F:情報フロンティア学部」が52.1%、「B:バイオ・化学部」が48.8%となっており、「E:工学部」と「B:バイオ・化学部」の差は11.9ポイントであった。
- 「後期」も「1時間程度」までの合計で比較すると、「E:工学部」が68.1%と最も多く、「V:環境・建築学部」が67.5%、「F:情報フロンティア学部」が63.9%、「B:バイオ・化学部」が60.4%と続いており、「E:工学部」と「B:バイオ・化学部」の差は7.7ポイントであった。
- 「前期」と「後期」を比較すると、「1時間程度」までの合計には差があるものの、学部の順は一致していた。

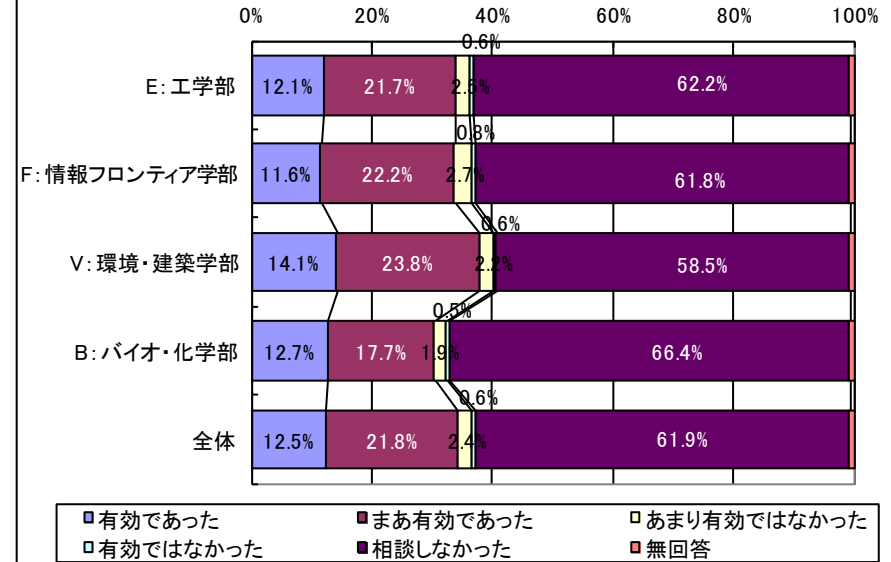


- 「E:教科書・指導書の適切さ」では「V:環境・建築学部」で肯定的な意見の割合が89.3%と最も高く、「E:工学部」が87.4%、「B:バイオ・化学部」が86.2%と続いており、「F:情報フロンティア学部」が82.1%とやや低めであった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」は「F:情報フロンティア学部」が88.9%と、わずかに9割に届かなかったが、他の3学部はいずれも肯定的な意見が9割を超え、最も高い「V:環境・建築学部」は92.8%となっており、課題・レポートの評価は非常に高かった。
- 「G:学習支援計画書との一致」は全ての学部で肯定的な意見の割合が95%を超えており、非常に評価が高かった。中でも最も評価が高かったのは「V:環境・建築学部」の97.6%であり、最も低かった「F:情報フロンティア学部」でも95.7%が肯定的な意見であった。

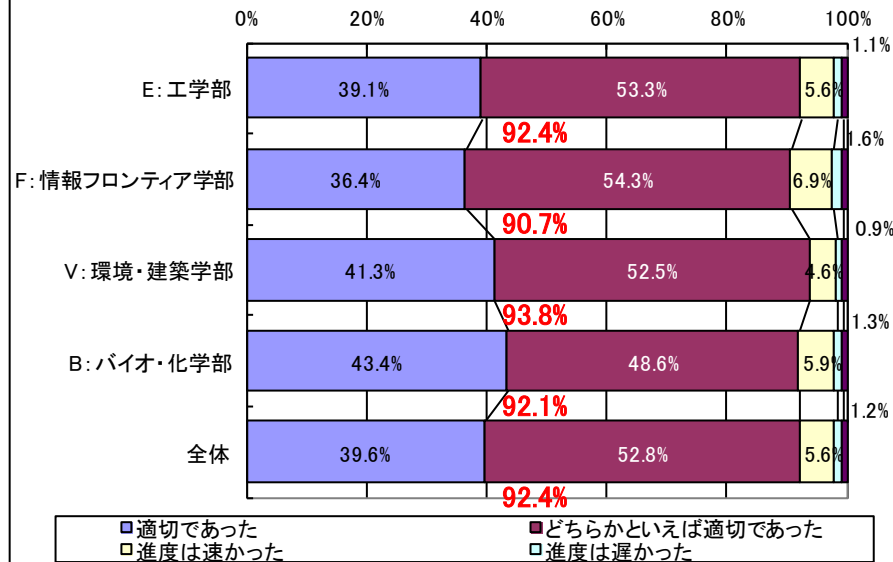


- 「H:授業の進度の適切さ」も全ての学部で9割以上が肯定的な意見で、学部間の差は少なく、進度に関しては大きな問題はなさそうであった。中でも最も肯定的な意見が多かったのは「V:環境・建築学部」の93.8%であった。
- 「I:学習相談(OH、チューター)の有効性」は「相談しなかった」という回答の割合で比較したところ、「B:バイオ・化学部」が66.4%と目立って高く、学習相談を利用していない様子が見えてきた。そして、「E:工学部」が62.2%、「F:情報フロンティア学部」が61.8%、「V:環境・建築学部」が58.5%となっており、「V:環境・建築学部」が学習相談を最も利用しているようであった。
- 「J:教員の熱意」も学部間の差が少なく、全ての学部で9割以上が肯定的な意見であった。最も肯定的な意見が多かったのは「B:バイオ・化学部」の95.3%であった。一方、最も少なかったのは「F:情報フロンティア学部」の92.2%であり、「B:バイオ・化学部」との差は3.1ポイントであった。

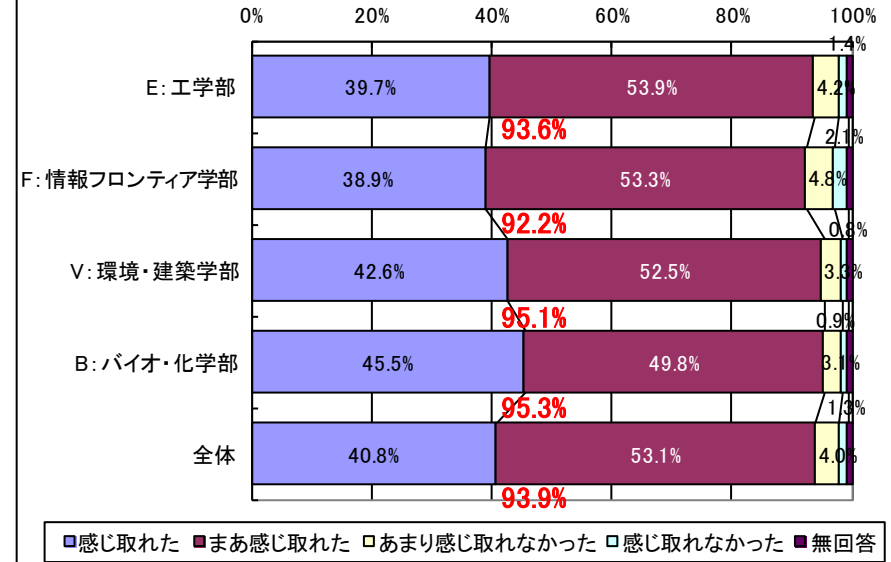
■I: 学習相談(OH、チューター)の有効性



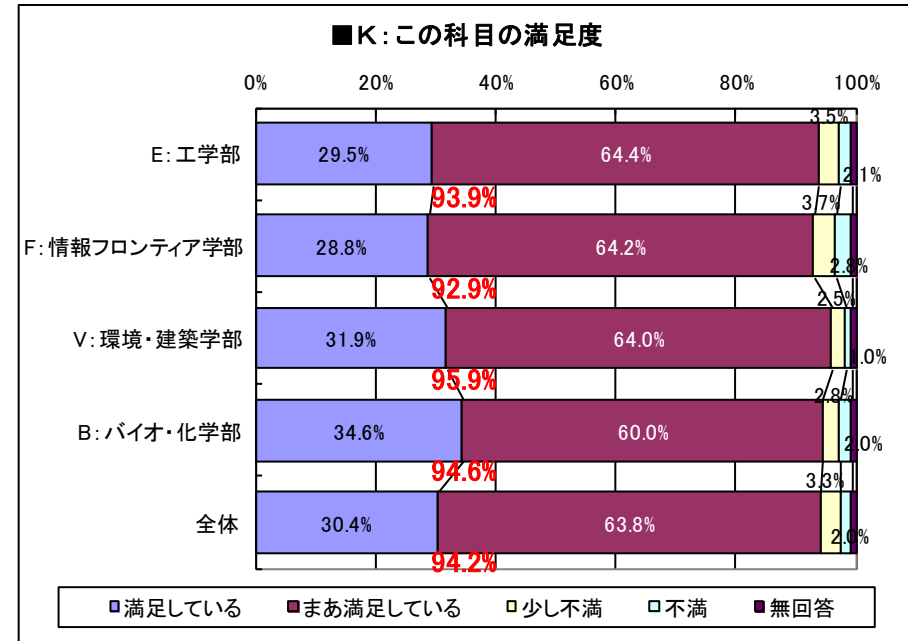
■H: 授業の進度の適切さ



■J: 教員の熱意



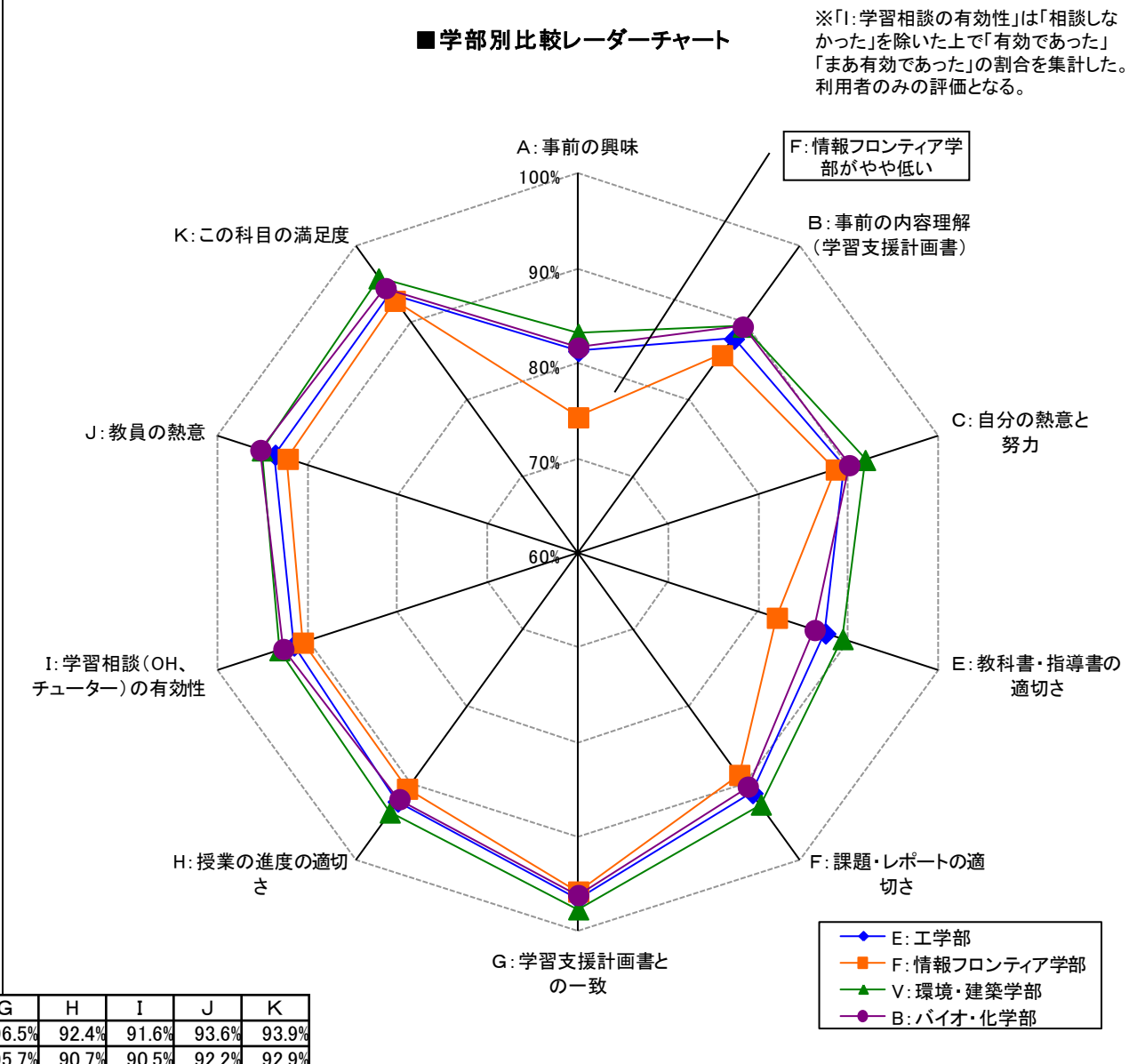
- 「K:この科目の満足度」も全ての学部で9割以上が肯定的な意見であり、全体的に高い満足度となっていた。最も満足度が高かったのは「V:環境・建築学部」の95.9%であったが、「満足している」だけを見ると「B:バイオ・化学部」が34.6%で最も高かった。一方で最も満足度が低かったのは「F:情報フロンティア学部」であったが、ここでも満足している割合は92.9%となっており、決して低いものではなかった。



# <4-2> 肯定的な意見の学部別比較

- 肯定的な意見の割合を、学部別にレーダーチャートでまとめた。
- 学部間の差は全体的に大きくないが、わずかに「F:情報フロンティア学部」が低めであり、特に「A:事前の興味」と「E:教科書・指導書の適切さ」の低さが目立っていた。
- 「F:情報フロンティア学部」以外の3学部の差は非常に小さかったが、「V:環境・建築学部」でやや高めのものが見られ、特に「C:自分の熱意と努力」「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」などが高めであった。
- 「E:工学部」と「B:バイオ・化学部」では特に目立ったものは見られなかった。

■ 学部別比較レーダーチャート



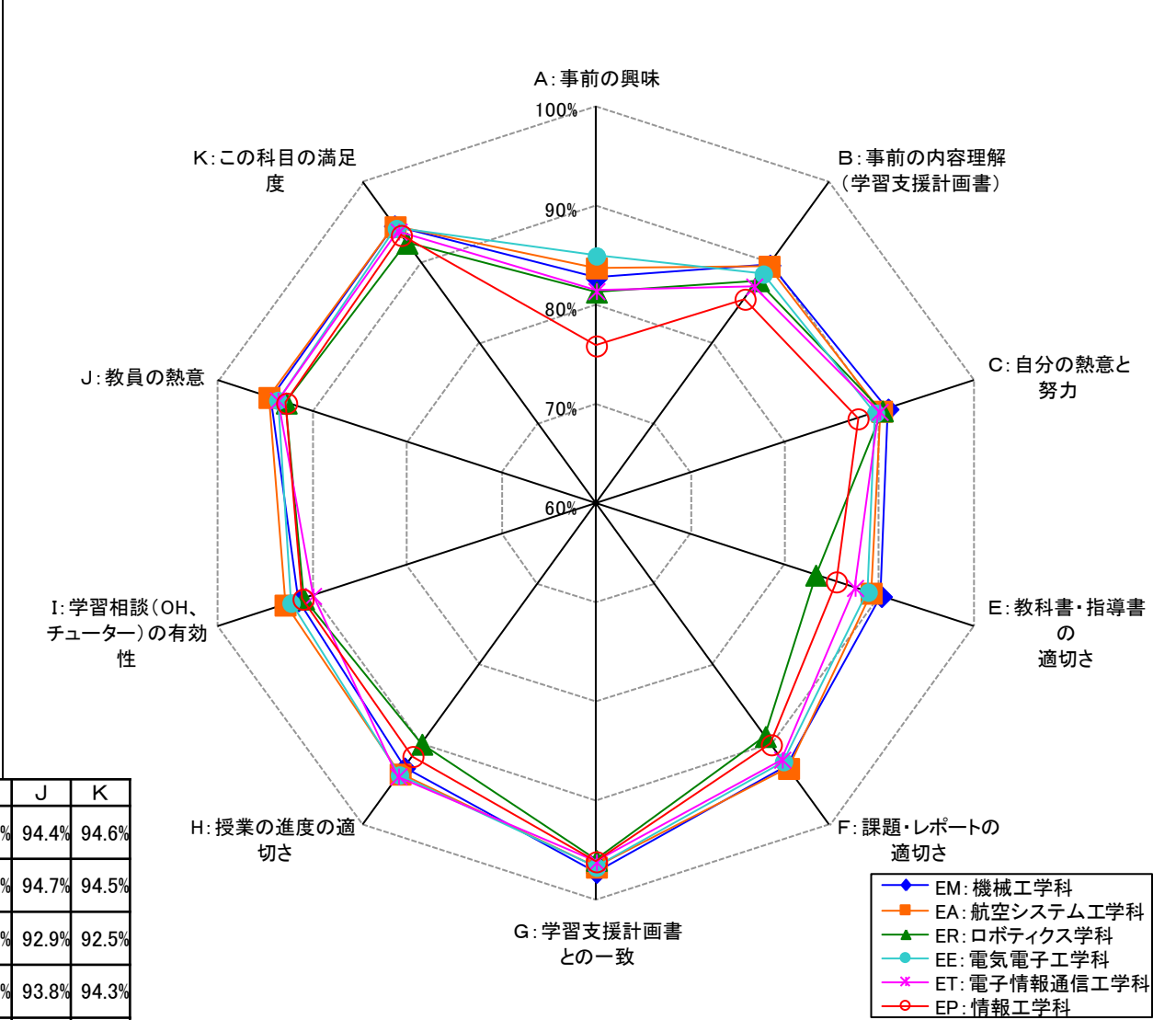
■ 学部別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
E:工学部	81.3%	88.0%	89.6%	87.4%	91.3%	96.5%	92.4%	91.6%	93.6%	93.9%
F:情報フロンティア学部	74.3%	85.8%	88.6%	82.1%	88.9%	95.7%	90.7%	90.5%	92.2%	92.9%
V:環境・建築学部	83.2%	89.5%	91.8%	89.3%	92.8%	97.6%	93.8%	93.2%	95.1%	95.9%
B:バイオ・化学部	81.7%	89.6%	90.1%	86.2%	90.5%	96.1%	92.1%	92.7%	95.3%	94.6%

# <4-3> 肯定的な意見の学科別比較

- 学科数が多いため、学科別集計は学部毎に分けて比較をしている。
- 「工学部」の6学科の間の際はあまり大きくなかったが、「EM:機械工学科」と「EA:航空システム工学科」でやや高いものが見られ、「ER:ロボティクス学科」と「EP:情報工学科」がやや低めであった。
- 「EA:航空システム工学科」では「B:事前の内容理解」「F:課題・レポートの適切さ」「I:学習相談の有効性」「J:教員の熱意」の高さが目立っており、授業の仕組みや教員の進め方など、周辺環境の評価が高めであった。
- 「ER:ロボティクス学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」の低さが目立っており、「H:授業の進度の適切さ」もやや低めであった。
- 「EP:情報工学科」は「A:事前の興味」が目立って低く、興味を持っていた割合は75.9%と唯一、8割を下回っていた。また、「B:事前の内容理解」「C:自分の熱意と努力」も低く、授業に対して積極的になれていない様子がうかがえた。ただし、「K:この科目の満足度」は低くはなかった。

■工学部 学科別比較レーダーチャート



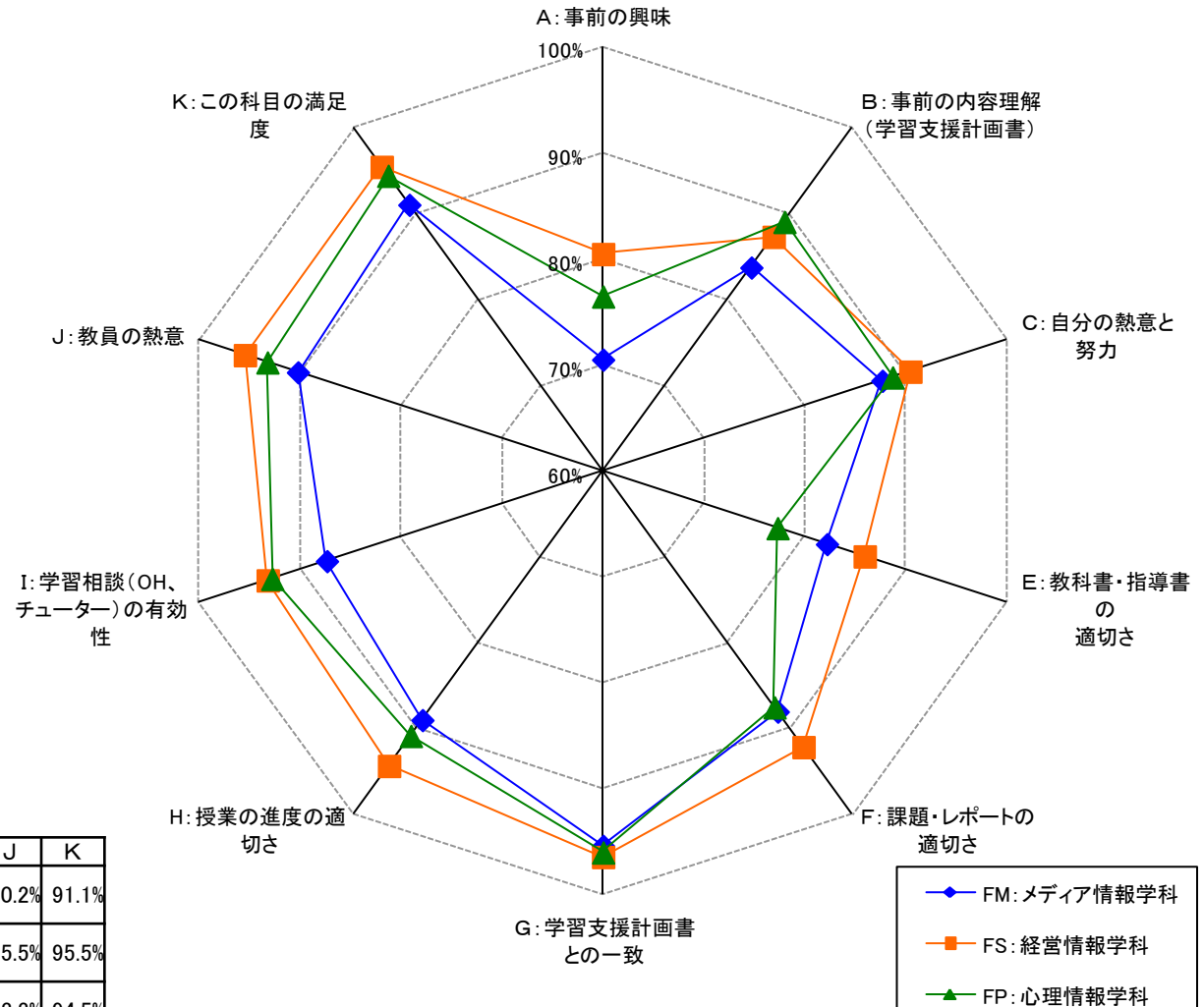
■工学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
EM:機械工学科	82.7%	89.7%	90.9%	90.2%	92.7%	97.1%	92.9%	91.6%	94.4%	94.6%
EA:航空システム工学科	83.8%	89.6%	90.2%	89.1%	92.9%	96.6%	93.6%	93.0%	94.7%	94.5%
ER:ロボティクス学科	81.3%	87.8%	90.3%	83.2%	89.0%	95.9%	89.9%	91.0%	92.9%	92.5%
EE:電気電子工学科	85.0%	88.6%	89.6%	88.8%	92.1%	96.6%	93.8%	92.4%	93.8%	94.3%
ET:電子情報通信工学科	81.4%	87.1%	90.0%	87.4%	91.9%	96.1%	93.9%	90.0%	93.7%	93.9%
EP:情報工学科	75.9%	85.5%	87.7%	85.4%	90.0%	96.1%	91.5%	91.1%	92.8%	93.4%



- 「情報フロンティア学部」は3学科であるが、全体的に「FS:経営情報学科」の授業評価が高く、「B:事前の内容理解」を除く全ての項目で最も高い評価になっており、「A:事前の興味」「C:自分の熱意と努力」「K:この科目の満足度」も高く、授業に積極的に取り組んでいる様子が見えてきた。
- 一方、全体的に低かったのは「FM:メディア情報学科」であり、「E:教科書・指導書の適切さ」「F:課題・レポートの適切さ」を除く全ての項目で最も低い評価となっていた。特に「A:事前の興味」の低さが目立っており、肯定的な意見は70.5%であった。
- 「FP:心理情報学科」は全体的に中庸な評価であったが、「E:教科書・指導書の適切さ」の低さは目立っていた。

■情報フロンティア学部 学科別比較レーダーチャート



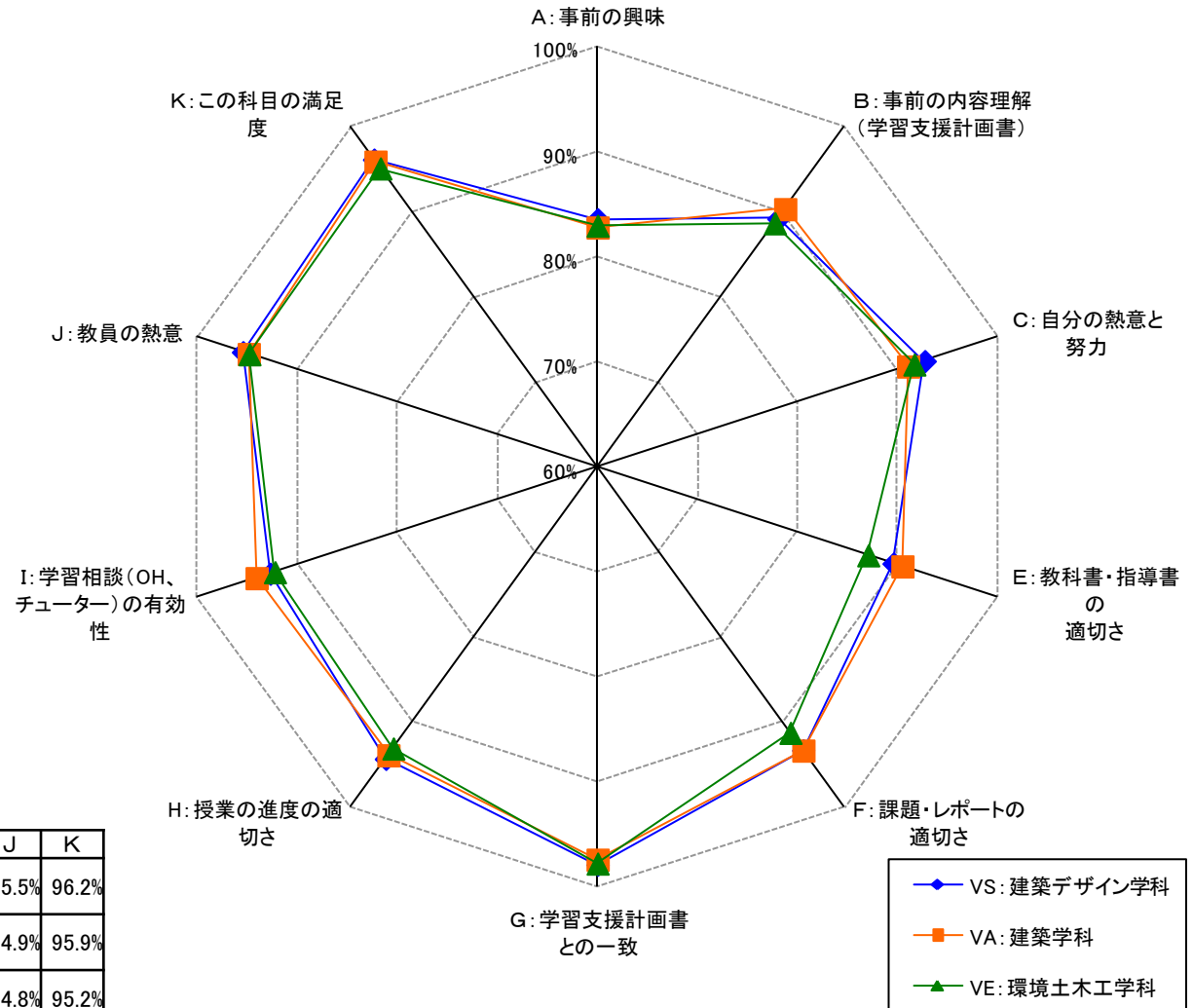
■情報フロンティア学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
FM:メディア情報学科	70.5%	83.8%	87.7%	82.2%	88.0%	95.3%	89.0%	87.4%	90.2%	91.1%
FS:経営情報学科	80.5%	87.3%	90.5%	85.9%	92.1%	96.4%	94.3%	93.2%	95.5%	95.5%
FP:心理情報学科	76.5%	89.1%	88.7%	77.3%	87.5%	95.9%	90.8%	92.8%	93.3%	94.5%



- 「環境・建築学部」の3学科では、学科間の差が非常に小さく、授業の評価に大きな差が見られなかった。
- 「VS:建築デザイン学科」と「VA:建築学科」は全体的にほぼ一致しており、大きな差は見られなかった。
- 「VE:環境土木工学科」も大きな差は見られなかったが、「E:教科書・指導書の適切さ」と「F:課題・レポートの適切さ」はやや低めとなっていた。

■環境・建築学部 学科別比較レーダーチャート

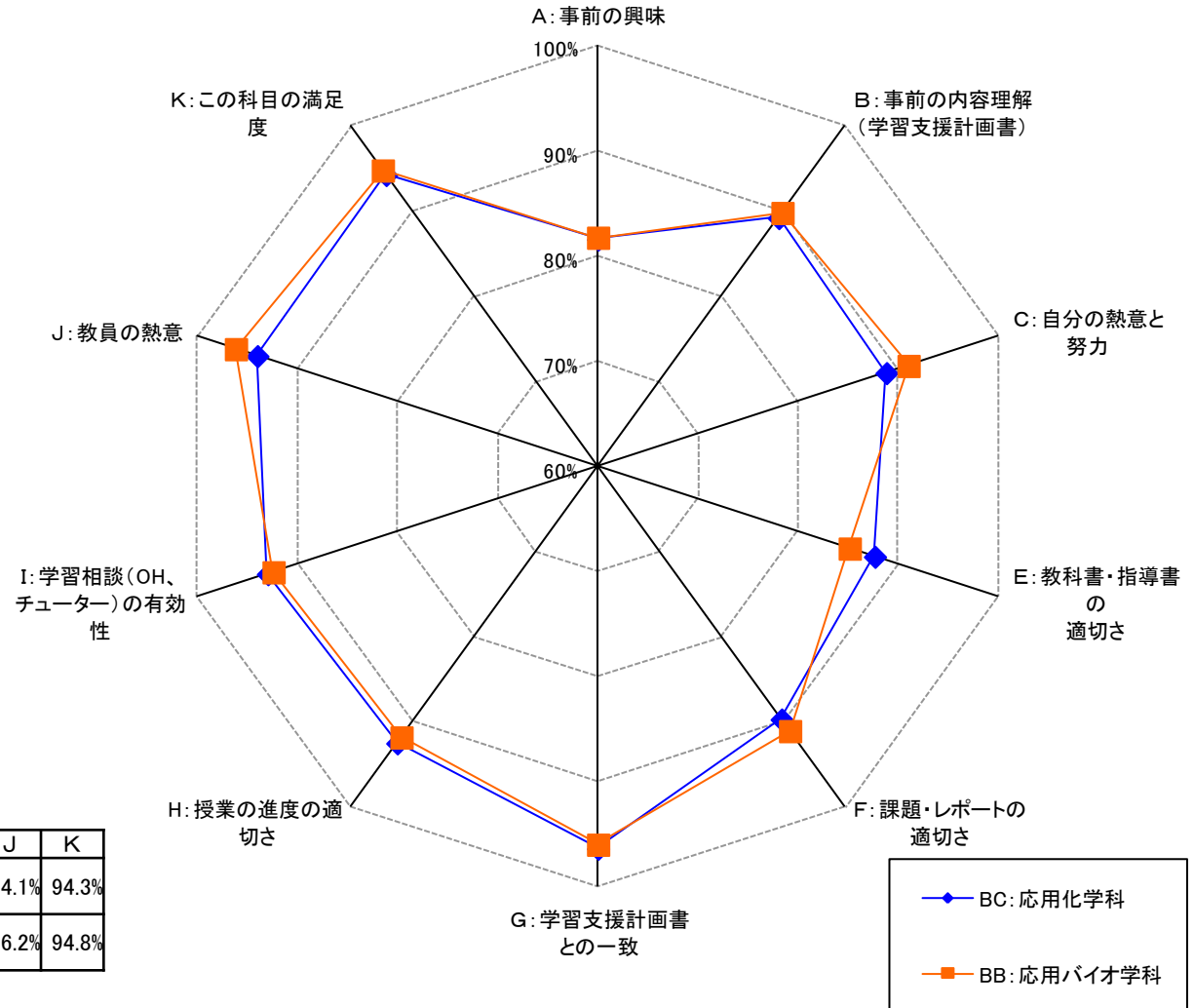


■環境・建築学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
VS: 建築デザイン学科	83.6%	89.2%	92.7%	89.6%	93.3%	97.8%	94.3%	92.7%	95.5%	96.2%
VA: 建築学科	82.8%	90.4%	91.1%	90.5%	93.3%	97.3%	93.9%	94.1%	94.9%	95.9%
VE: 環境土木工学科	83.0%	88.7%	91.7%	87.1%	91.2%	97.7%	93.1%	92.3%	94.8%	95.2%

- 「バイオ・化学部」は2学科の比較であるが、差はあまり大きくなく、似た評価となっていた。
- 「BC:応用化学科」は「E:教科書・指導書の適切さ」の評価がやや高く、「C:自分の熱意と努力」「J:教員の熱意」がやや低めであった。
- 「BB:応用バイオ学科」は上記とは逆の特徴を持つことになるが、「C:自分の熱意と努力」「J:教員の熱意」がやや高く、教員の熱意を感じながら、積極的に授業に取り組んでいる様子が見えられた。

■ バイオ・化学部 学科別比較レーダーチャート



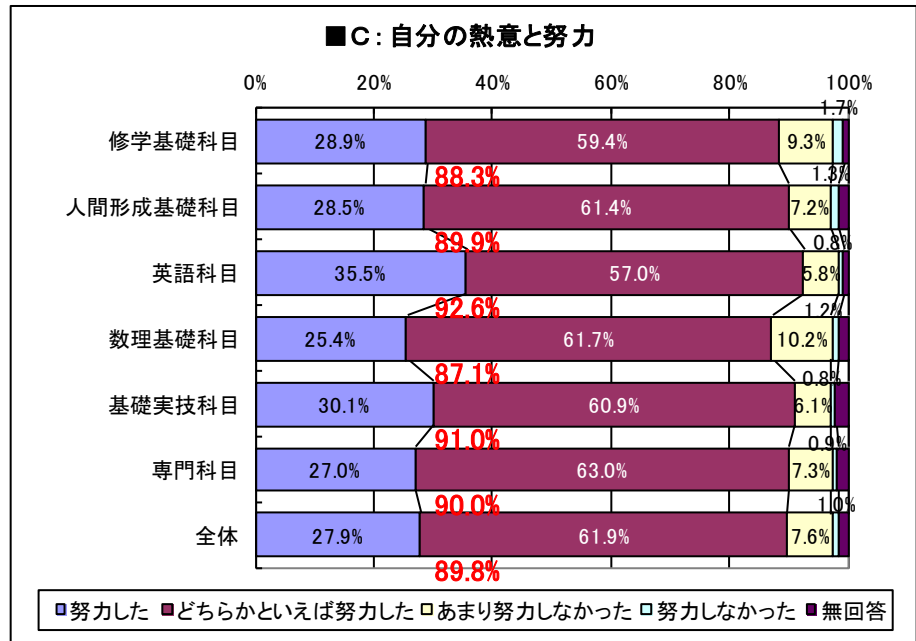
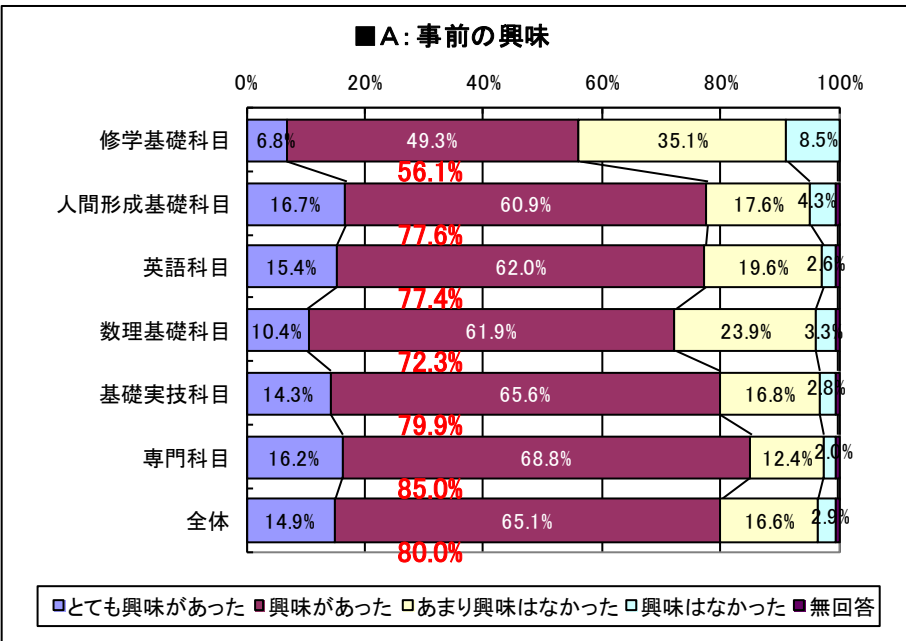
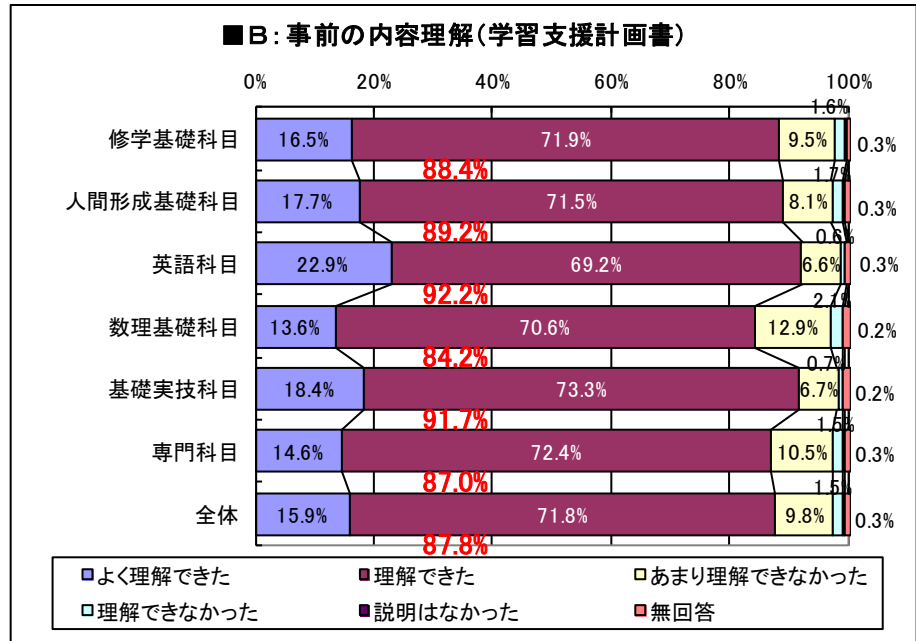
■ バイオ・化学部 学科別比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
BC: 応用化学科	81.6%	89.2%	88.8%	87.7%	89.7%	96.3%	92.5%	93.0%	94.1%	94.3%
BB: 応用バイオ学科	81.8%	89.8%	91.0%	85.2%	91.0%	95.9%	91.8%	92.4%	96.2%	94.8%

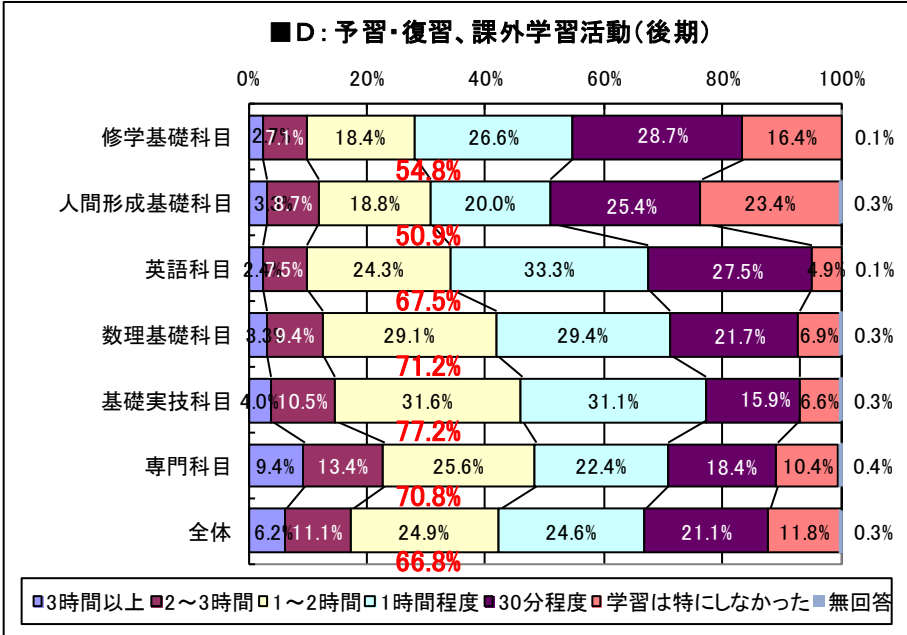
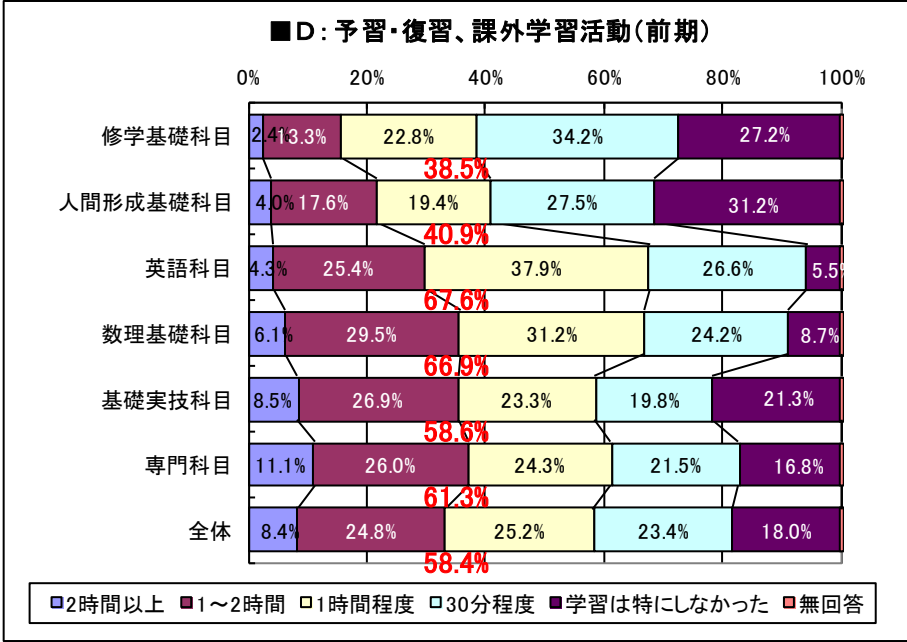
## <5>科目区分別の分析

# <5-1>科目区分別の比較

- 今回は「1年次生」から「4年次生」まで、全ての学年で同じ科目区分となっている。
- 「A:事前の興味」では「修学基礎科目」で肯定的な意見が56.1%と低い点が目立っていた。一方、肯定的な意見の割合が最も高かったのは「専門科目」の85.0%であり、「修学基礎科目」との差は28.9ポイントであった。
- 「B:事前の内容理解」は科目群による差がそれほど大きくなく、全ての科目群で8割以上が肯定的な意見であった。「英語科目」の92.2%、「基礎実技科目」の91.7%は9割を超えて特に高く、事前の内容理解が進んでいるようであった。
- 「C:自分の熱意と努力」も科目群による差が小さく、全ての科目群で9割前後が肯定的な回答をしていた。「英語科目」の92.6%、「基礎実技科目」の91.0%、「専門科目」の90.0%は9割を超えており、特に「英語科目」では「努力した」が35.5%で、積極的に取り組んでいる様子が見えがえた。

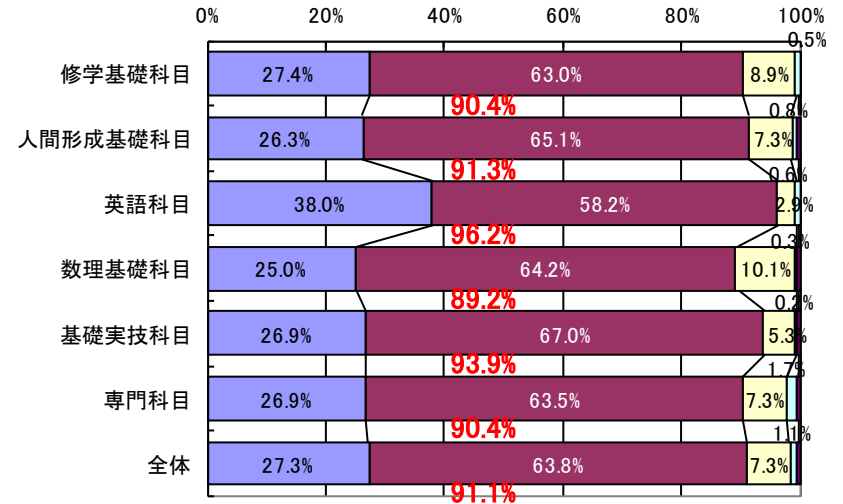


- 「D:予習・復習、課外学習活動」の前期の結果を「1時間程度」までの合計と比較すると、「英語科目」が67.6%で最も多く、「数理基礎科目」が66.9%で続いていた。一方、少なかったのは「修学基礎科目」の38.5%、「人間形成基礎科目」の40.9%などであったが、「学習は特にしなかった」だけを見ると「人間形成基礎科目」が31.2%で最も多かった。
- 後期の結果を見ると、「1時間程度」までの合計が最も多かったのは「基礎実技科目」の77.2%であった。次いで、「数理基礎科目」が71.2%、「専門科目」が70.8%となっており、ここまでの3科目は「1時間程度」までの合計が7割を超えていた。一方、最も少なかったのは「人間形成基礎科目」50.9%であり、「修学基礎科目」が54.8%で続いていた。学習時間の少ないこの2科目は、前期とも共通していた。



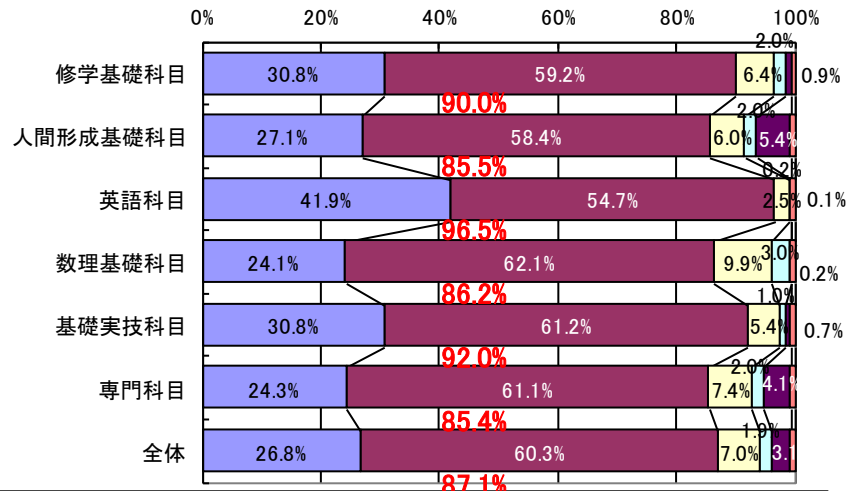
- 「E:教科書・指導書の適切さ」の肯定的な意見の合計を見ると、全ての科目群で85.0%を超えており、全体的に評価は高かった。特に「英語科目」が96.5%、「基礎実技科目」が92.0%、「修学基礎科目」が90.0%で、この3科目は9割を超えていた。一方、最も低かったのは「専門科目」であったが、この科目でも85.4%であり、評価は高かった。
- 「F:課題・レポートの適切さ」の肯定的な意見の合計は、「数理基礎科目」の89.2%を除く全ての科目で9割を超えており、評価は非常に高かった。最も評価が高かったのは「英語科目」の96.2%であり、「十分役立った」だけを見ても38.0%であった。
- 「G:学習支援計画書との一致」も全体的に評価が高く、肯定的な意見の合計はいずれも95.0%を超えていた。最も評価が高かったのは「英語科目」の99.1%で、ほぼ全員が肯定的であり、「沿っていた」だけを見ても57.6%と、6割に近かった

■F: 課題・レポートの適切さ



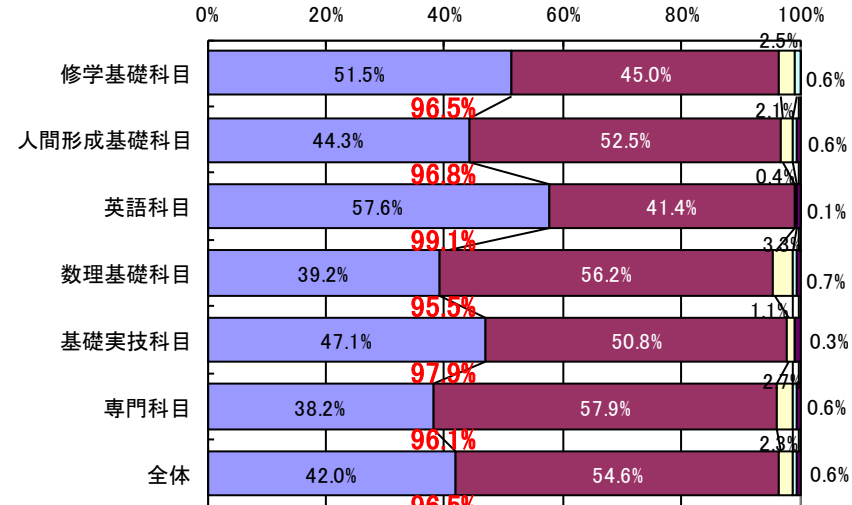
■十分役立った ■役に立った □あまり役立たなかった □課題またはレポート等はなかった ■無回答

■E: 教科書・指導書の適切さ



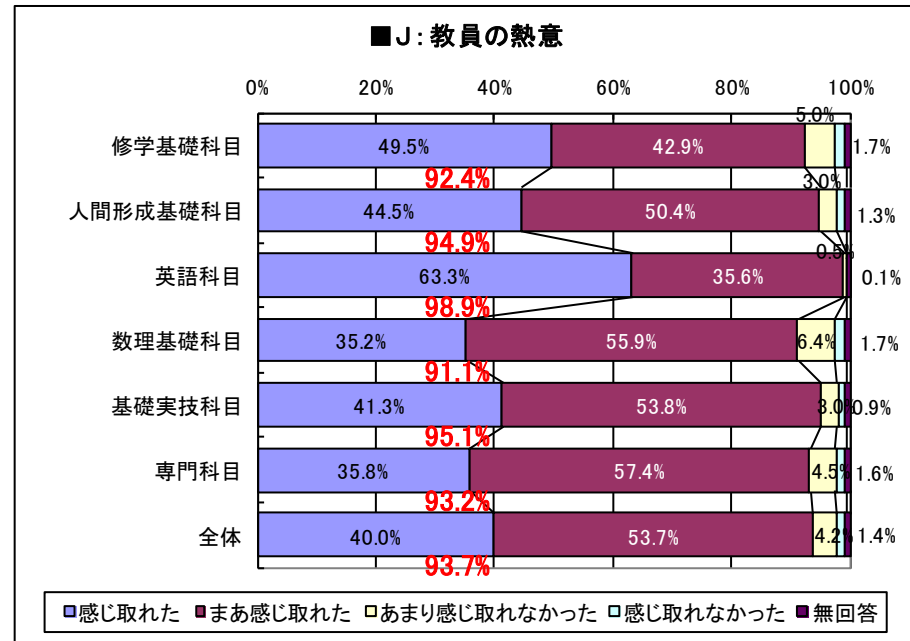
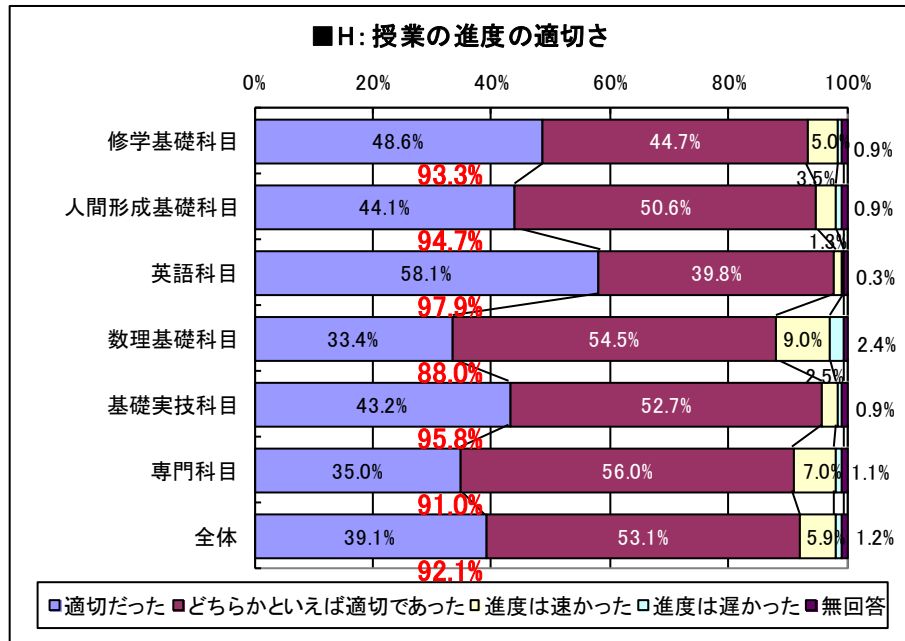
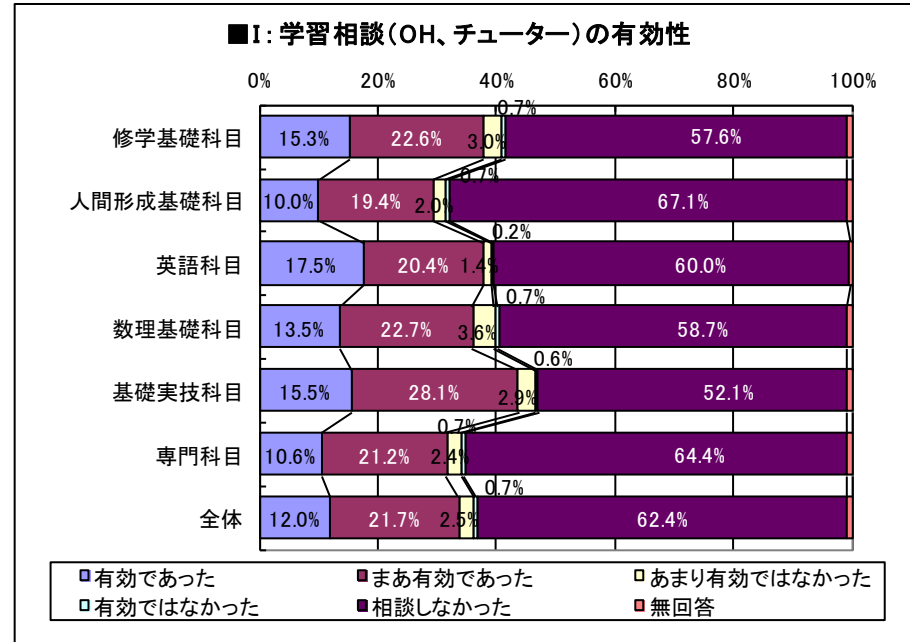
■適切だった ■まあ適切だった □あまり適切ではなかった □適切ではなかった ■教科書・指導書はなかった ■無回答

■G: 学習支援計画書との一致

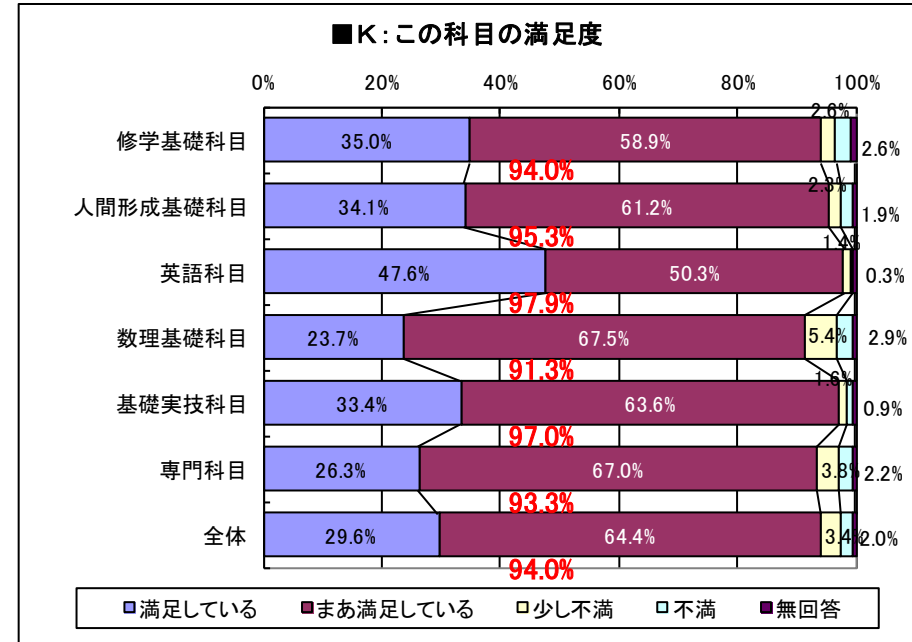


■沿っていた ■ほとんど沿っていた □あまり沿ってなかった □沿ってなかった ■無回答

- 「H:授業の進度の適切さ」に関してもほとんどの項目で9割以上が肯定的な意見であり、大きな課題はなさそうであった。肯定的な意見が最も多かったのは97.9%の「英語科目」であり、「適切だった」だけを見ても58.1%あり、評価は非常に高かった。
- 「I:学習相談の有効性」を「相談しなかった」の割合で比較すると、「人間形成基礎科目」の67.1%が最も高く、「専門科目」が64.4%で続いており、これらの科目では学習相談の利用が少ないようであった。一方、利用者の評価を見ると、否定的な意見はほとんどの科目ではほんの少しであり、利用者からの評価は高いと言える。
- 「J:教員の熱意」は全ての科目区分で肯定的な意見が9割以上を占めており、教員の熱意はいずれの科目でもよく伝わっているようであった。最も高かったのは「英語科目」の98.9%であり、「感じ取れた」だけでも63.3%と非常に高く、他の科目区分と大きな差が見られた。



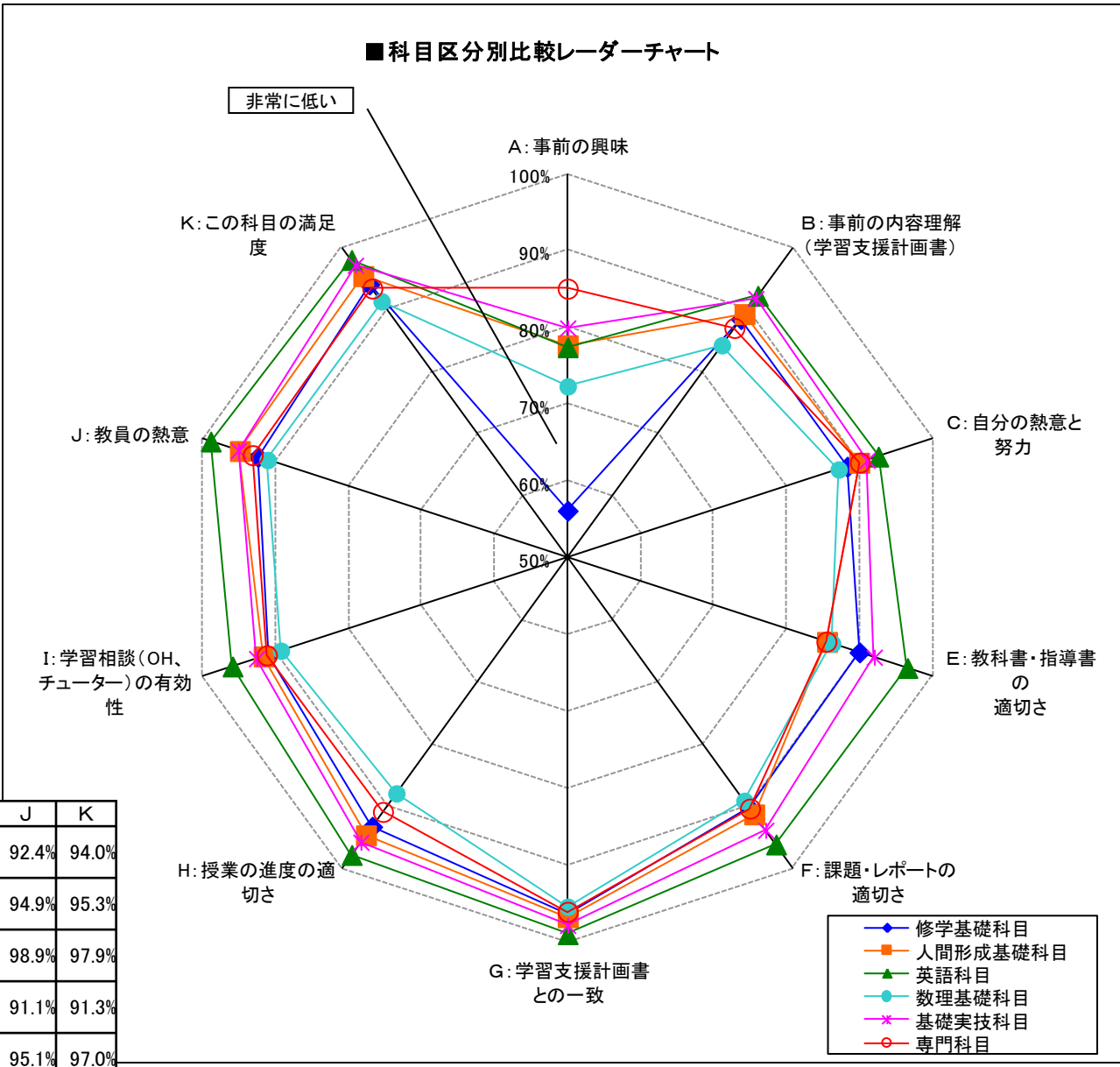
- 「K:この科目の満足度」も全ての科目群で肯定的な意見の合計が9割を超えており、満足度は非常に高いと言える。最も満足度が高かったのは「英語科目」の97.9%であるが、この科目群では「満足している」という回答だけを見ても47.6%と半数に近く、満足度としては非常に高いと言える。一方、最も低かったのは「数理基礎科目」であるが、この科目群でも肯定的な意見は91.3%であり、決して低いものではなかった。





# <5-2> 肯定的な意見の科目区分別比較

- 肯定的な意見の割合を、科目区分別にレーダーチャートで比較した。
- 全体の傾向を見ると、「A:事前の興味」では科目区分によって非常に大きな差が出ていた。一方、主要な指標である「C:自分の熱意と努力」「K:この科目の満足度」は科目区分による差が小さく、積極性と満足度には科目による差がないことが分かった。
- 差の大きさが目立っている「A:事前の興味」では「専門科目」が高く、「修学基礎科目」が目立って低くなっており、学生の興味の方向が分かる結果となっていた。
- 全体的に高かったのは「英語科目」で、特に「教科書・指導書の適切さ」「J:教員の熱意」などの高さが目立っていた。
- 一方で全体的に低い科目区分は見られなかったが、「数理基礎科目」でやや低めの項目が見られた。



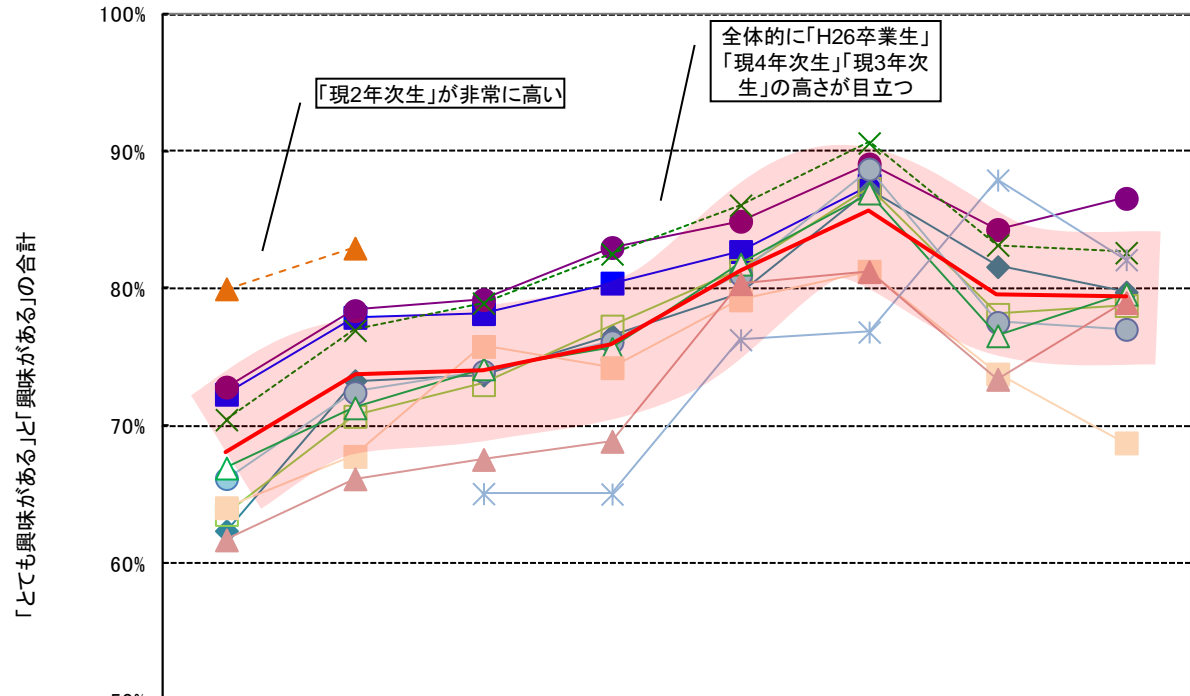
■ 科目の評価比較

	A	B	C	E	F	G	H	I	J	K
修学基礎科目	56.1%	88.4%	88.3%	90.0%	90.4%	96.5%	93.3%	91.1%	92.4%	94.0%
人間形成基礎科目	77.6%	89.2%	89.9%	85.5%	91.3%	96.8%	94.7%	91.7%	94.9%	95.3%
英語科目	77.4%	92.2%	92.6%	96.5%	96.2%	99.1%	97.9%	95.9%	98.9%	97.9%
数理基礎科目	72.3%	84.2%	87.1%	86.2%	89.2%	95.5%	88.0%	89.3%	91.1%	91.3%
基礎実技科目	79.9%	91.7%	91.0%	92.0%	93.9%	97.9%	95.8%	92.6%	95.1%	97.0%
専門科目	85.0%	87.0%	90.0%	85.4%	90.4%	96.1%	91.0%	91.2%	93.2%	93.3%

## <6> 同一学生群の分析

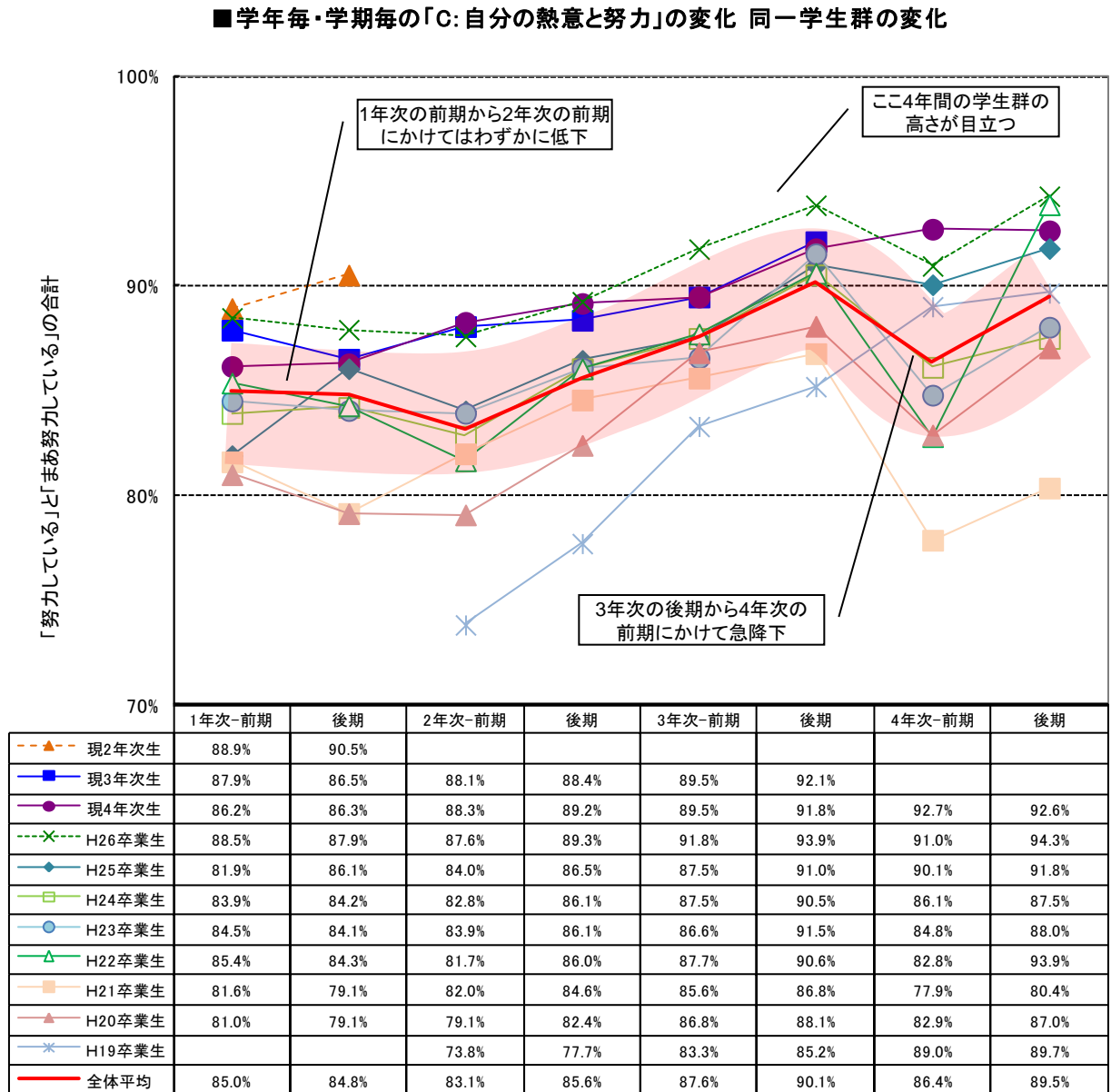
- 同一学生群が学年が上がるにつれて、どのような意識変化をしているのかを確認した。
- 学期制度は「H21卒業生」の段階で3学期制から2学期制に変わっているため、「H21卒業生」以前の学生群は「秋学期」を「後期」として集計し、「冬学期」のデータは除外している。
- まず、「全体平均」の赤太線を見ると、「1年次-前期」から「3年次-後期」にかけて徐々に肯定的な意見が増加し、授業に対する興味が増している傾向が見られる。その後、「4年次-前期」にかけてやや低下し、横這いとなっている。
- 学生群としては「H26卒業生」「現4年次生」「現3年次生」が高く、ここ数年の学生群が授業に強い興味を持っていることが確認できた。そして、途中段階であるが「現2年次生」の興味が非常に強く、今後、どのようになるか注目したい学生群と言える。
- 一方、「H19卒業生」「H20卒業生」「H21卒業生」の学生群は4年間を通して授業に対する興味の低さが目立っていた。そして、「H22卒業生」「H23卒業生」「H24卒業生」「H25卒業生」などは、「全体平均」に近くなっており、徐々に事前の興味が強くなってきていると言える。

■ 学年毎・学期毎の「A:事前の興味」の変化 同一学生群の変化



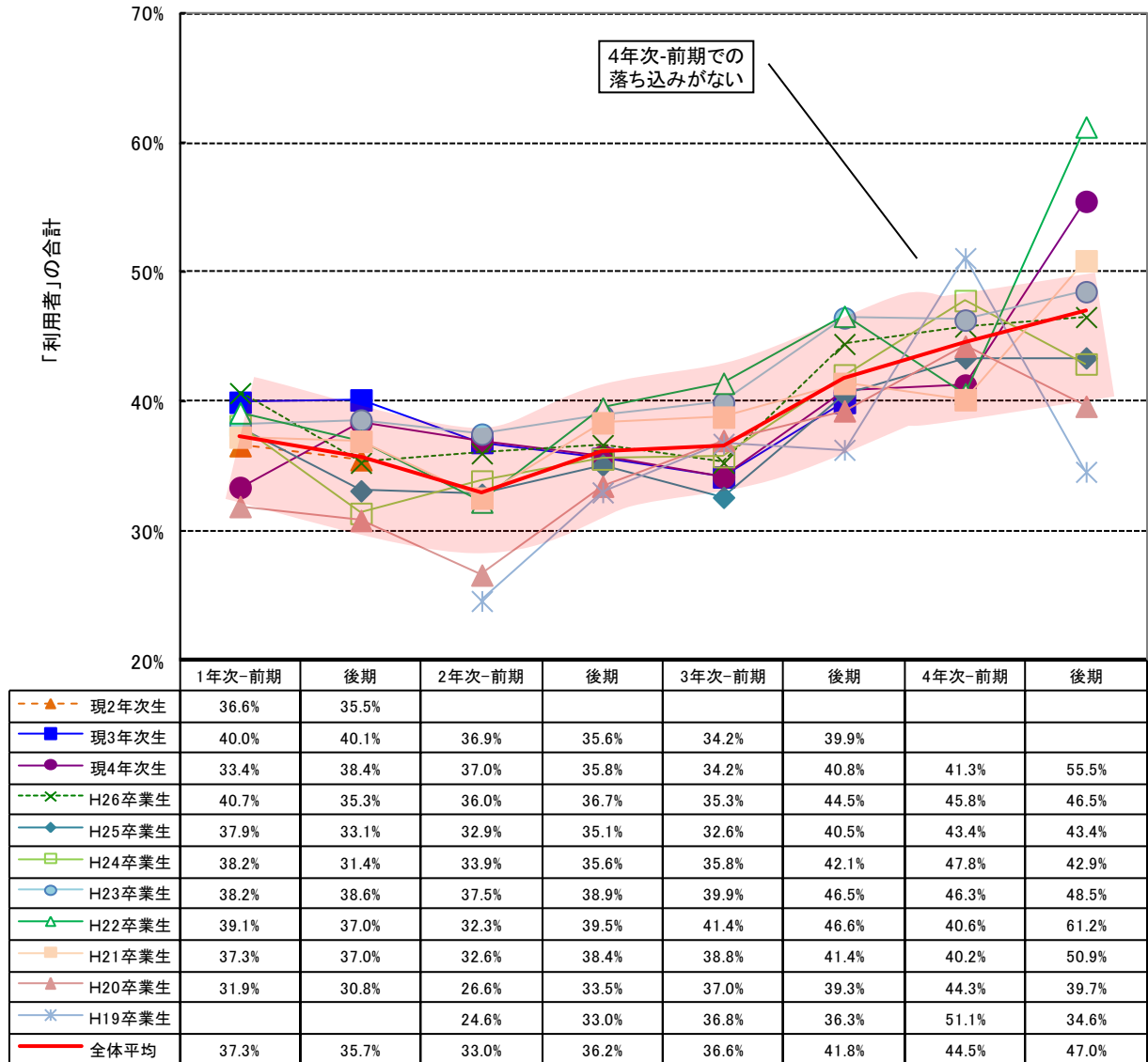
	1年次-前期	後期	2年次-前期	後期	3年次-前期	後期	4年次-前期	後期
---▲--- 現2年次生	80.0%	83.0%						
---■--- 現3年次生	72.3%	77.9%	78.2%	80.4%	82.7%	87.5%		
---●--- 現4年次生	72.8%	78.4%	79.2%	83.0%	84.9%	89.1%	84.3%	86.6%
---×--- H26卒業生	70.4%	77.0%	78.9%	82.5%	86.1%	90.6%	83.2%	82.6%
---◆--- H25卒業生	62.3%	73.3%	73.7%	76.6%	79.6%	87.1%	81.6%	79.7%
---□--- H24卒業生	63.5%	70.7%	73.0%	77.3%	81.3%	87.3%	78.1%	78.8%
---○--- H23卒業生	66.2%	72.4%	74.0%	76.1%	81.0%	88.7%	77.5%	77.0%
---△--- H22卒業生	66.9%	71.3%	74.2%	75.6%	81.8%	87.0%	76.6%	79.6%
---◇--- H21卒業生	64.0%	67.8%	75.8%	74.2%	79.2%	81.3%	73.8%	68.8%
---▲--- H20卒業生	61.7%	66.1%	67.5%	68.9%	80.4%	81.2%	73.4%	79.0%
---*--- H19卒業生			65.1%	65.0%	76.3%	76.8%	87.9%	82.1%
---●--- 全体平均	68.0%	73.8%	74.0%	76.0%	81.3%	85.7%	79.6%	79.4%

- 「C:自分の熱意と努力」の「全体平均」は「1年次-前期」から「2年次-前期」にかけて、わずかに低下するが、その後は増加傾向に変わり、4年間を通して「3年次-後期」で、熱意と努力が最も高くなっている。その後、「4年次-前期」にかけては急降下し、卒業を控えた「4年次-後期」に再び上昇していた。
- 学生群別の特徴を見ると、前項と同様に直近4年間の学生群は肯定的な意見が多かった。「現3年次生」と「現4年次生」は「3年次-後期」までの動きがよく似ていた。また、「現4年次生」は4年次生になって前期に、過去の学生群にあった低下がなく、4年間を通して熱意と努力が増していくという傾向が見られた。
- 「H26卒業生」の肯定的な意見は、「3年次-後期」で93.9%、「4年次-前期」で94.3%と非常に高く、これまでの学生群で最も熱意と努力が高い学生群であった。
- 「現2年次生」のデータは2期分しかないが、これまでにない高さとなっており、今後の変化が気になる学生群と言える。

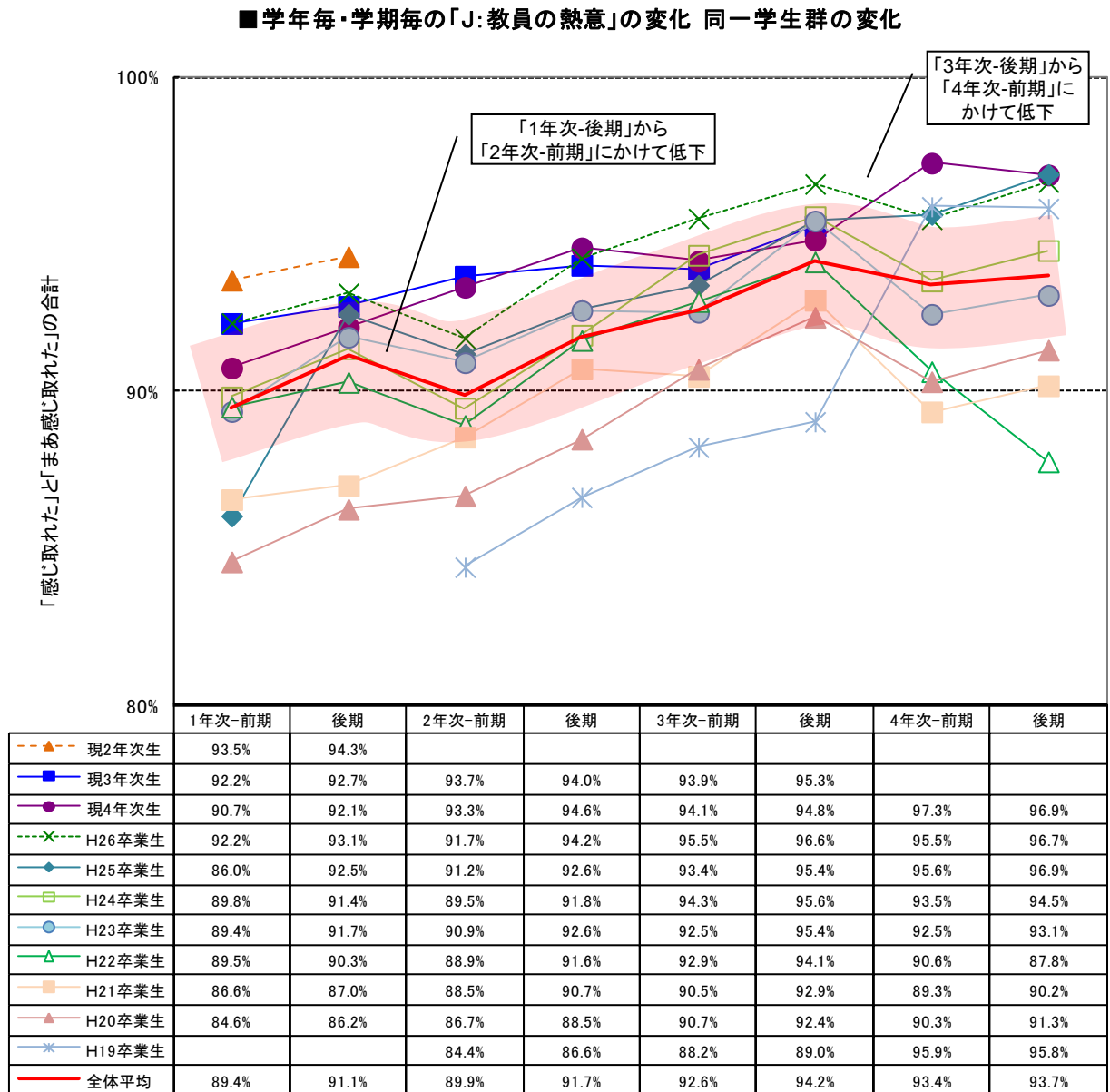


- 「I:学習相談の有効性」では、内容の評価ではなく、「学習相談利用者割合」の変化を確認した。
- 「学習相談利用者割合」の「全体平均」を見ると、変化は穏やかであり、学年によって利用率に差はないようであった。また、最も大きな特徴は「4年次-前期」での落ち込みがなく、「4年次-後期」の利用率が最も高いという点であり、他の指標と大きく違う点であった。
- 学生群毎の特徴を見ると、他の指標よりも学生群によるバラツキが少なく、在学時期が異なっても、一定の割合の学生が学習相談を利用していることが分かる。
- 他の指標では、直近4年間の学生群が良い状態に見受けられたが、学習相談では、そのような特徴は見られず、「H22卒業生」「H23卒業生」の利用率が高いなど、以前よりも利用率が上がるなどの変化は見られなかった。

■ 学年毎・学期毎の「I:学習相談の有効性」による  
「学習相談利用者割合変化」同一学生群の変化

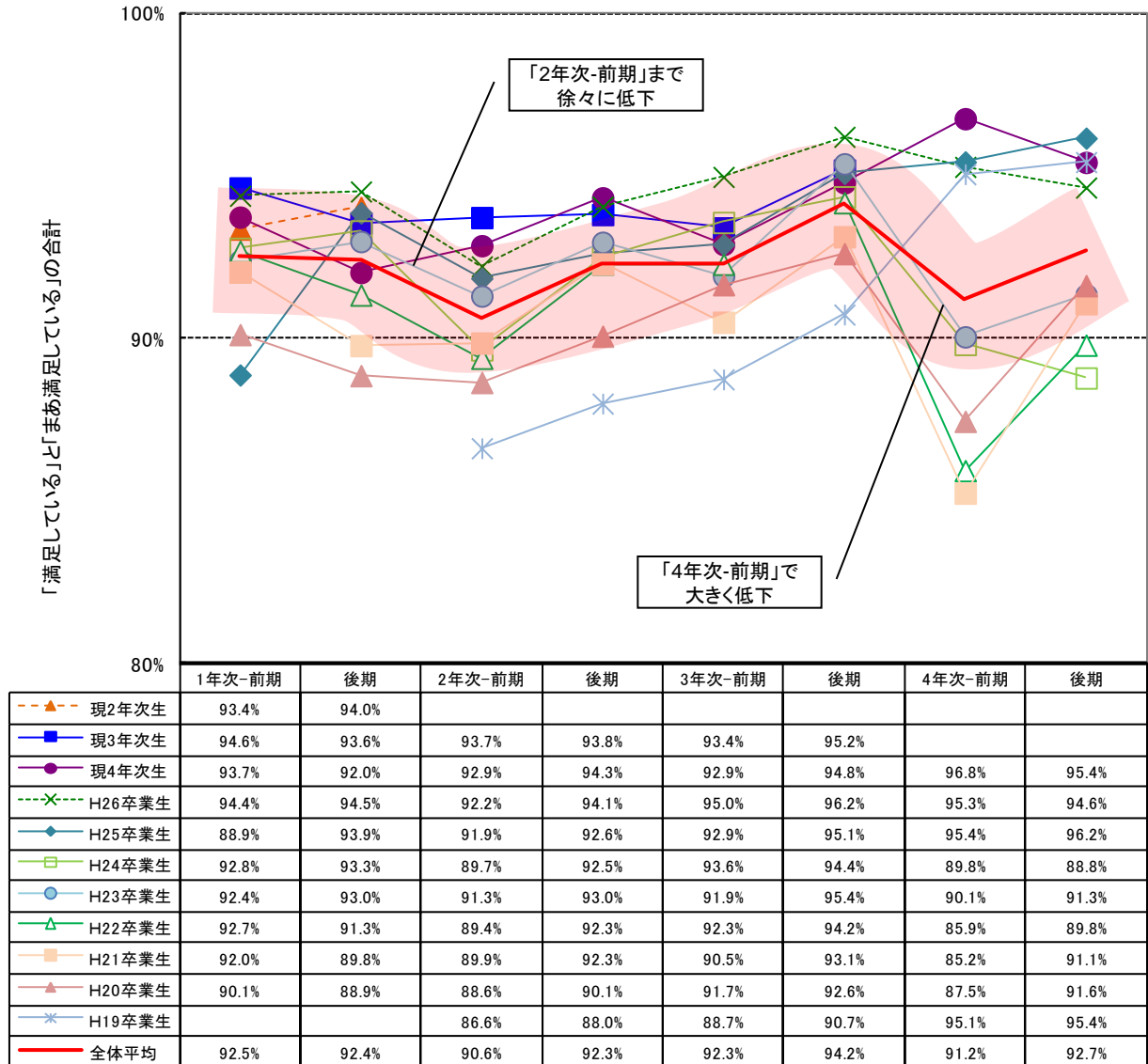


- 「J:教員の熱意」の全体傾向を見ると、他の指標と同様に「2年次-前期」と「4年次-前期」に低下する傾向は見られたが、その低下の幅は小さく、4年間を通してほぼ9割以上の学生が教員の熱意を感じていると答えていた。特に「4年次-前期」での低下は非常に小さく、授業以外の卒業研究などで教員の熱意を感じているのではないかと思われる。
- 学生群としては、ここでも直近4年間の学生群で肯定的な意見が多かった。特に「現4年次生」は「3年次-後期」から「4年次-前期」にかけて肯定的な意見が大きく増加していた。
- 「現2年次生」は他の指標と同様に2期分のデータしかないが、そこでの肯定的な意見の多さが非常に目立っていた。



- 「K:この科目の満足度」の「全体平均」も、他の主要な指標と同様に「2年次-前期」と「4年次-前期」で低下するものの、常に9割以上が満足と答えており、4年間を通して高い満足度が続いていると言える。また、他の指標では、「4年時-前期」まで肯定的な意見が増加する傾向が見られたが、「満足度」では「3年次-後期」まで横這いに近い変化で、学年による差が小さいと言える。
- 学生群では他の主要な指標と同様に直近4年間の「満足度」の高さが目立っており、以前の学生群と比べると、授業に対する満足度は上がっていると言える。
- 「教員の熱意」でも見たように、「現4年次生」が「4年次-前期」で非常に高い満足度を示していた。
- ここまでに見た主要な指標では「H25卒業生」は、あまり目立った特徴は見られなかったが、「1年次-前期」を除くと「満足度」は高い状態で推移しており、「4年次-後期」の卒業直前では、これまでで最も高い満足度となっていた。
- 「現2年次生」は「興味」「熱意と努力」「教員の熱意」などでは目立って高かったが、「満足度」はそれほど高くなかった。

■ 学年毎・学期毎の「K:満足度」の変化 同一学生群の変化

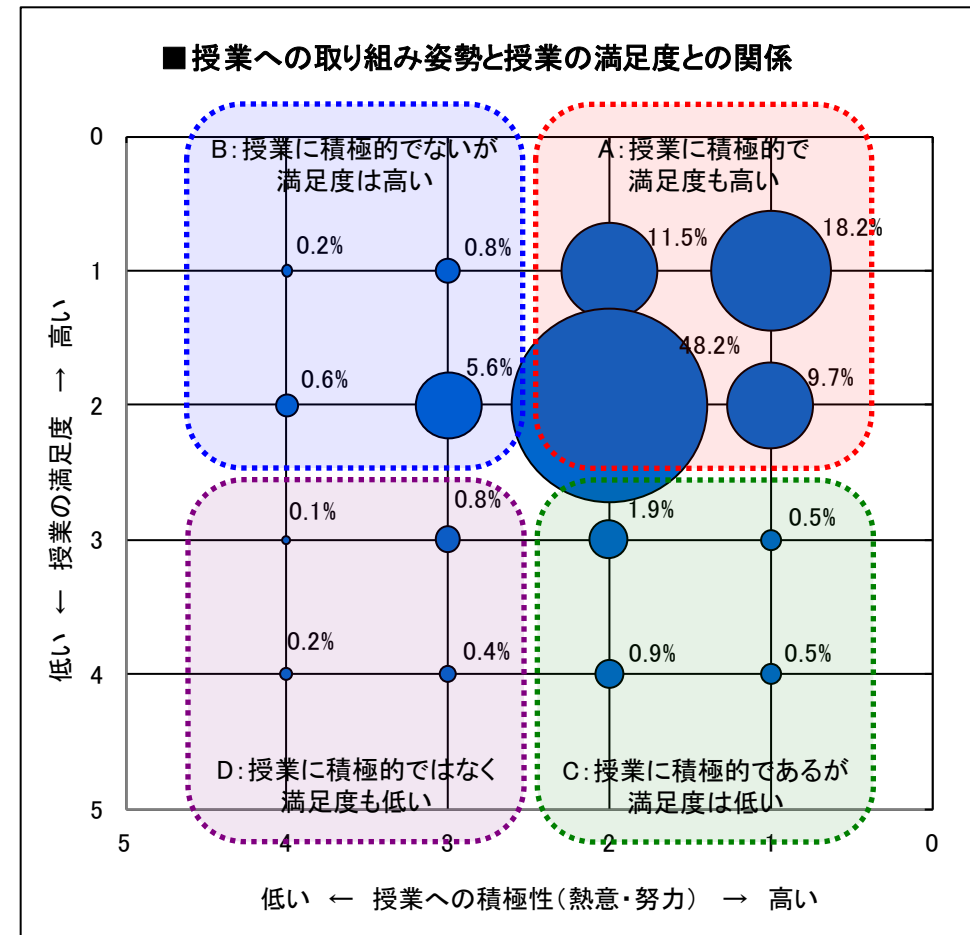


## <7> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度の分析



# <7-1> 授業への取り組み姿勢と授業の満足度との関係

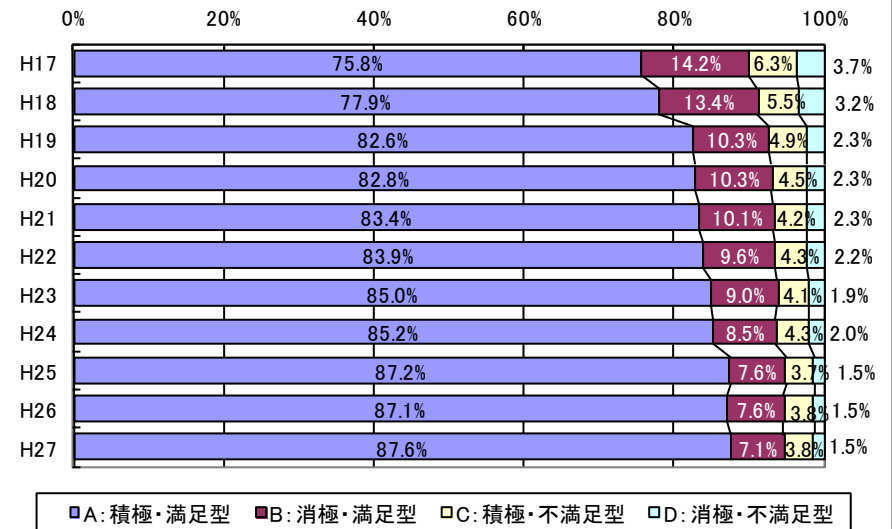
- 「C:自分の熱意と努力」(積極性)と「K:この科目の満足度」の2つの指標を掛け合わせ、4つのグループに分けて比較を行った。
- 「A:授業に積極的で満足度も高い」という回答は87.6%と9割近く、大多数の学生は充実しているようであった。その中でも「満足度」「積極性」が共に「高い」という学生は18.2%であり、全体の2割弱であった。
- 「B:授業に積極的でないが満足度は高い」という回答は7.1%であった。これは授業に積極的に取り組んでいるわけではないのに満足度が高いという学生群であり、解釈が難しいが、教員の指導によって引っ張られている学生が含まれるのではないかとと思われる。
- 「C:授業に積極的であるが満足度は低い」という回答は3.8%と少なかった。これらは授業に積極的に取り組んでいるにもかかわらず、満足度が得られていないという学生群であり、積極性が失われないようにしっかりとしたフォローが必要な層だと言える。
- 「D:授業に積極的ではなく満足度も低い」という回答は1.5%と、非常に少なかったが、大学としては最もフォローが必要な層であり、授業のおもしろさを感じさせるといった初期段階から指導する必要があるのではないかとと思われる。



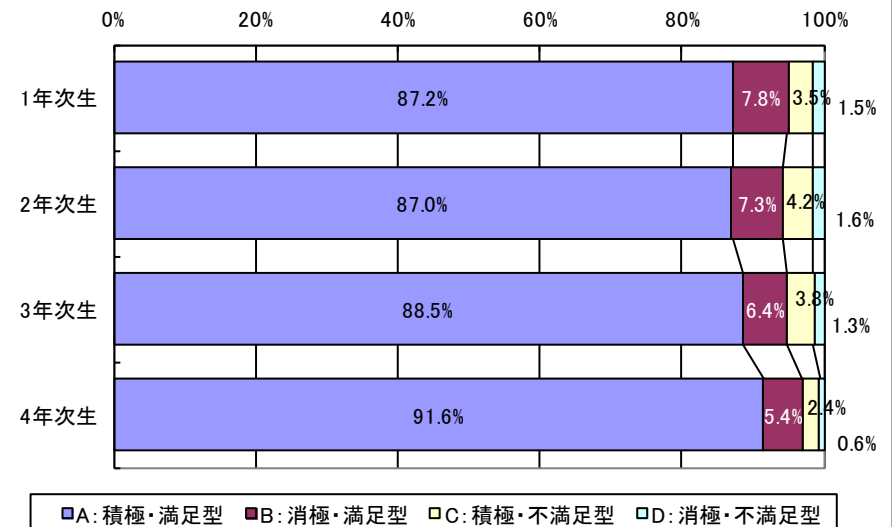
領域	割合	取り組み姿勢	略号
A	87.6%	授業に積極的で満足度も高い。 良い状態にある学生群であり、このグループが増えることが望ましい。	積極・満足型
B	7.1%	授業に積極的でないが満足度は高い。 教員の指導によって引っばられているものと思われる。 積極性を持ってもらいたいが、無理強いをする必要まではないと思われる。	消極・満足型
C	3.8%	授業に積極的であるが満足度は低い。 頑張っているのに満足が得られないグループであり、注意が必要。 「期待はずれ」「ついていけない」といった理由が考えられる。	積極・不満足型
D	1.5%	授業に積極的ではなく満足度も低い。 最も大きな課題であり、学生自身の自主性もないものと思われる。	消極・不満足型

- 前項で見た4グループの割合の経年変化を見た。
- 「A:積極・満足型」は前回を0.5ポイント上回っていた。H17からH25までは増加傾向にあり、前回はわずかに前々回を下回ったが、今回は過去最高となった。ただし、変化はわずかであり、ほぼ横這い状態と言える。
- 「B:消極・満足型」は前回を0.5ポイント下回ったが、その他の2つのグループは前回と全く同じだった。
- 学年別の比較で「A:積極・満足型」の割合を見ると、「1年次生」が87.2%、「2年次生」が87.0%でほぼ同じであったが、「3年次生」は88.5%、「4年次生」は91.6%と、高学年になるほど増加する傾向が見られ、高学年がやや充実しているようであった。
- 「B:消極・満足型」は「1年次生」と「2年次生」がやや多めであり、「C:積極・不満足型」と「D:消極・不満足型」は学年による差が少なかった。

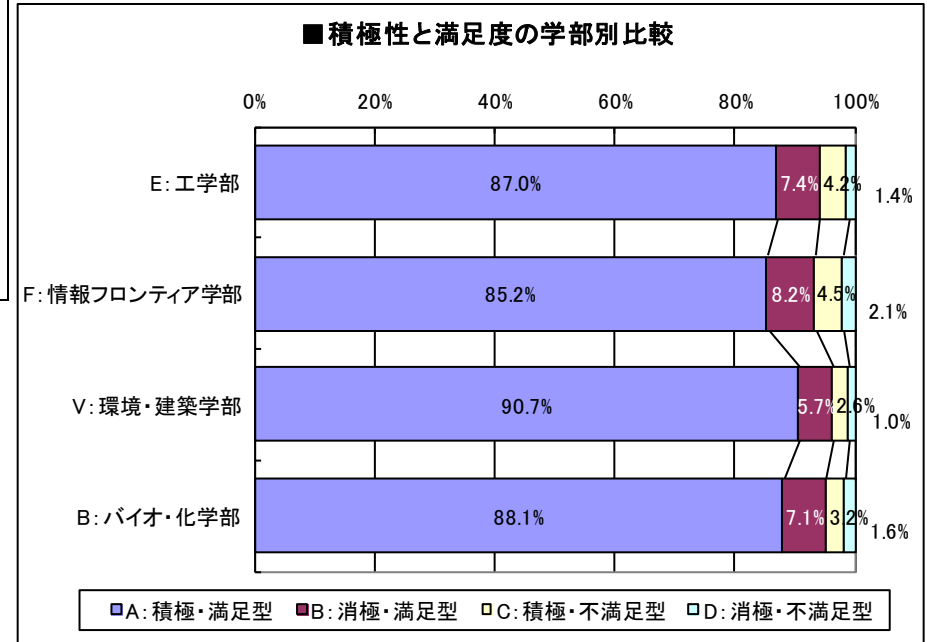
### ■ 積極性と満足度の経年変化



### ■ 積極性と満足度の学年別比較



- 学部別に「A:積極・満足型」の割合を比較すると、差はそれほど大きくないが、「V:環境・建築学部」が90.7%で最も多く、次いで、「B:バイオ・化学部」が88.1%、「E:工学部」が87.0%、「F:情報フロンティア学部」が85.2%となっており、「V:環境・建築学部」と「F:情報フロンティア学部」の差は5.5ポイントであった。
- 「V:環境・建築学部」は「A:積極・満足型」が多かったため、「B:消極・満足型」と「C:積極・不満足型」が少なめであったが、他の学部では差がほとんど見られなかった。



## <8> 全体のまとめ

## <8-1> 全体の分析で分かったこと

今回の集計、分析から分かったことは下記の通り。

### 【全体傾向で確認できた事】

8割の学生が授業に興味を持ち、9割の学生が熱意と努力を持って授業を受けたと答えており、非常に積極的な様子がうかがえた。結果的に94.2%が授業に満足し、93.8%が教員の熱意を感じていた。

- ◆ 「事前の興味」では80.6%、「事前の内容理解」では88.1%、「自分の熱意と努力」では89.9%が肯定的な意見であり、8～9割の学生が受講前から興味を持って、積極的に授業に取り組んでいるようであった。
- ◆ 教材では「教科書・指導書」で86.8%、「課題・レポート」で91.1%が肯定的な意見であった。また、「授業の進度」は92.4%、「学習支援計画書との一致」では96.5%が肯定的な意見であり、問題は見られなかった。
- ◆ 最終的には94.2%の学生が授業に満足し、93.8%が教員の熱意を感じたと答えており、授業の評価は非常に高いと言える。

### 【経年変化で確認できた事】

いずれの指標も肯定的な意見が多いため横這いに近いが、ほとんどの指標が前回を上回っていた。主要な指標である「熱意と努力」と「満足度」は過去最高となった。

- ◆ いずれの指標も肯定的な意見が多いため横這いに近いが、ほとんどの指標が前回を上回って過去最高となっていた。
- ◆ 学生自身の姿勢としては、「事前の興味」が前年をわずかに下回ったものの、「事前の内容理解」「自分の熱意と努力」「満足度」はいずれも過去最高となっており、充実している様子がうかがえた。
- ◆ 「教員の熱意」はわずかに前回を下回ったが、肯定的な意見は93.8%と高く、「教科書・指導書」「課題・レポート」「学習支援計画書との一致」「授業の進度」の評価はいずれも過去最高となった。
- ◆ 「学習相談」の利用率は前回を下回ったが、評価は過去最高であった。

### 【学年別比較で確認できた事】

「4年次生」の評価は全項目で最も高く、充実しているようであった。「興味」「事前の内容理解」「教員の熱意」は高学年ほど高かった。その他の項目の「1年次生」から「3年次生」はほぼ横並びであった。

- ◆ 「4年次生」は全ての項目で肯定的な意見が最も多かった。そして、「事前の興味」「事前の内容理解」「自分の熱意と努力」「教員の熱意」などは高学年ほど肯定的な意見が増加する傾向が見られた。その他の項目の「1年次生」から「3年次生」の差は大きくなく、似た評価であった。
- ◆ 「4年次生」は全項目が高かったが、主要な仕様である「自分の熱意と努力」「教員の熱意」などは他の学年との差がはっきりしており、「学習相談の有効性」を有効に活用している傾向が見られた。
- ◆ 「1年次生」は低いものが多く見られ、特に「事前の興味」は目立って低かった。そして、「前期」の「学習時間」が非常に少なかった。

### 【学部別・学科別比較で確認できた事】

全体的に「情報フロンティア学部」の評価が低く、中でも「メディア情報学科」の低さが目立っていた。一方、「環境・建築学部」はやや高めで、

積極的に授業に取り組んでいる様子がうかがえた。

- ◆ 学部間の差は大きくないが、全体的に「情報フロンティア学部」が低めで、特に「事前の興味」と「教科書・指導書」の低さが目立っていた。一方、「環境・建築」ではやや高いものが見られ、特に「自分の熱意と努力」「教科書・指導書」「課題・レポート」が高めであった。
- ◆ 「工学部」では「航空システム工学科」でやや高いものが見られたが、「ロボティクス学科」「情報工学科」はやや低めであり、「情報工学科」の「事前の興味」は目立って低かった。
- ◆ 「情報フロンティア学部」は学科の差が大きかった。「経営情報学科」は全体的に高く、「メディア情報学科」が低めであった。
- ◆ 「環境・建築学部」と「バイオ・化学部」は学科の差が非常に少なかった。

## 【科目区分別比較で確認できた事】

「専門科目」に対する「興味」の強さと「修学基礎科目」に対する弱さが確認できたが、「熱意と努力」「満足度」は科目区分による差が少なく、全ての科目に積極的に取り組んでいる様子がうかがえた。

- ◆ 「事前の興味」は科目区分によって非常に大きな差があり、「専門科目」に対する興味が強いこと、「修学基礎科目」に対する興味が非常に弱いことが分かった。一方、「自分の熱意と努力」「満足度」は科目区分による差が少なく、いずれの科目にも積極的に取り組み、満足している様子がうかがえた。
- ◆ 「英語科目」は全体的に肯定的な意見が多く、特に「教科書・指導書」「教員の熱意」の評価が高かった。
- ◆ 全体的に評価の低い科目は見られなかったが、「数理基礎科目」でやや低いものが見られた。

## 【積極性と満足度の指標から確認できた事】

「積極・満足型」は87.6%で過去最高となり、高学年ほど多かった。差は小さいが学部では「環境・建築学部」で多く、充実している様子がうかがえた。

- ◆ 「積極・満足型」が87.6%と大多数を占めており、その中でも「満足度」「積極性」が共に「高い」という学生は18.2%であった。「積極・満足型」は前回は0.5ポイント上回って過去最高となった。
- ◆ 「積極・満足型」は「1年次生」で87.2%、「2年次生」で87.0%とほぼ同じであるが、「3年次生」で88.5%、「4年次生」で91.6%と、高学年ほど増加する傾向が見られ、高学年はやや充実しているようであった。
- ◆ 学部別に「積極・満足型」を比較すると、差は大きくないが、「環境・建築学部」が90.7%で最も多く、次いで、「バイオ・化学部」が88.1%、「工学部」が87.0%、「情報フロンティア学部」が85.2%であった。

## 【同一学生群で確認できた事】

同一学生群の変化を見ると、以前より充実感が増している傾向が見られる。また、近年は「4年次-前期」で「満足度」が低下しない学生群が増加するなどの変化も見られる。

- ◆ 主要な指標の同一学生群毎の変化を見ると、「事前の興味」「自分の熱意と努力」「教員の熱意」「満足度」では、直近の4つの学生群(H26卒業生、現4年次生、現3年次生、現2年次生)の高さが目立っており、以前より充実している様子がうかがえた。
- ◆ 全体平均を見ると、入学から「2年次-前期」までは「積極性」や「満足度」が低下する傾向が見られるが、その後は「3年次-前期」まで充実感が増すようであった。その後、「4年次-前期」で大きく低下するが、これは留年や再履修者の影響ではないかと思われる。
- ◆ 最近の学生群では「4年次」での「満足度」の低下が見られないケースもあり、卒業前の意識も変わっているようであった。



ここまでの分析から分かったことをまとめると下記のようなになる。

- 8割の学生が授業に興味を持ち、9割の学生が熱意と努力を持って授業を受けたと答えており、非常に積極的な様子うかがえた。結果的に94.2%が授業に満足し、93.8%が教員の熱意を感じていた。
- いずれの指標も肯定的な意見が多いため横這いに近いが、ほとんどの指標が前回は上回っていた。主要な指標である「熱意と努力」と「満足度」は過去最高となった。
- 「4年次生」の評価は全項目で最も高く、充実しているようであった。「興味」「事前の内容理解」「教員の熱意」は高学年ほど高かった。その他の項目の「1年次生」から「3年次生」はほぼ横並びであった。
- 全体的に「情報フロンティア学部」の評価が低く、中でも「メディア情報学科」の低さが目立っていた。一方、「環境・建築学部」はやや高めで、積極的に授業に取り組んでいる様子うかがえた。
- 「専門科目」に対する「興味」の強さと「修学基礎科目」に対する弱さが確認できたが、「熱意と努力」「満足度」は科目区分による差が少なく、全ての科目に積極的に取り組んでいる様子うかがえた。
- 同一学生群の変化を見ると、以前より充実感が増している傾向が見られる。また、近年は「4年次-前期」で「満足度」が低下しない学生群が増加するなどの変化も見られる。
- 「積極・満足型」は87.6%で過去最高となり、高学年ほど多かった。差は小さいが学部では「環境・建築学部」で多く、充実している様子うかがえた。



- ❖ 94.2%の学生が授業に「満足」しており、93.8%が「教員の熱意」を感じている。また、「授業への興味」「熱意と努力」などを見ても、非常に授業に積極的に取り組んでおり、良い状態にあるようであった。
- ❖ ほとんどの指標が非常に良い状態である。以前からの変化は小さいものの、「熱意と努力」「満足度」などは過去最高であり、更に良い状態に向かっている。
- ❖ 以前は「2年生での中だるみ」や「卒業直前での満足度の低下」が見られたが、徐々にそのような落ち込みが少なくなり、入学から卒業に向けて充実度が増す学生が増加する傾向が見られた。
- ❖ 「環境・建築学部」の充実度がやや高く、「情報フロンティア学部」が低い傾向が見られる。